# 論文（総説を含む）

CA: corresponding Author（責任著者）

## 1990 年以前

調剤しかできない薬剤師の仕事に魅力を見いだせなくて 30 歳の時に薬剤師を辞めて小学校の教師になろうと決意し、猛勉強。でも岡山まで行った受験に失敗し、収入のために薬剤師を続けることを決意。でもドクターたちとの抄読会で医師に負けない面白い英語論文を読もうと必死でした。研究でも透析中のカテコラミン濃度の変動や、透析患者の微量元素の測定など、今となっては英語論文にしておけばという注目された研究を日本語論文にも出来なかった。あの時、指導者がいれば・・・・。

1. 1.　平田純生，山本忠司，堀内延昭，野崎寛爾，水谷洋子，山川　眞，岸本武利，前川正信: 血液透析中の限外濾液分析－新しく考案した限外濾液連続分取装置について－，人工臓器 8: 578-581, 1979　総説
2. Kishimoto T, Yamakawa M, Mizutani Y, Yamamoto T, Hirata S, Horiuchi N: Morbidity, instability, and serum acetate levels during hemodialysis, Proc 2nd Meeting of ISAO : 101-108, 1979　英文原著
3. 平田純生，堀内延昭，山本忠司，　西谷博，八星元彦，水谷洋子，山川　眞，山本啓介，江崎和芳，岸本武利，前川正信: 高 Na 透析施行時の限外濾液中カテコールアミン濃度について，人工臓器 11: 178-181, 1982　総説
4. Yamakawa M, Yamamoto T, Kishimoto T, Mizutani Y, Yatsuboshi M, Nishitani H, Hirata S, Horiuchi N, Maekawa M: Serum levels of acetate and TCA cycle intermediates during hemodialysis in relation to symptoms. Nephron 32: 155-161, 1982　英文原著
5. Yamamoto T, Yamakawa M, Kishimoto T, Mizutani Y, Yatsuboshi M, Nishitani H, Hirata H, Horiuchi N, Maekawa M: The effect of sodium acetate: comparison of red-cell 2,3-diphosphoglycerate (2,3-DPG) between acetate and bicarbonate dialysis, Trans Am Soc Artif Intern Organs 28: 291-294, 1982 英文原著
6. Yamamoto T, Shimizu G, Horiuchi N, Hirata S, Nishitani H, Mizutani Y, Yamakawa M, Kishimoto T, Maekawa M: Vascular stability in low-temperature dialysis, Progress in Artif Organs: 430-433, 1983 英文原著
7. Kishimoto T, Yamamoto K, Yamamoto T, Mizutani Y, Horiuchi N, Hirata S, Yamagami S, Yamakawa M, Maekawa M.: Acetate intolerance in hemodialysis. Trans Am Soc Artif Intern Organs. 29: 402-407, 1983　英文原著

8. Yamamoto T, Yamakawa M, Kishimoto T, Senju M, Hashinaka Y, Mizutani Y, Hirata S, Horiuchi N, Maekawa M: The interrelationship of ddialysate glucose and lactate in continuous ambulatory peritoneal dialysis (CAPD), Tranc Am Soc Artif Intern Organs 31: 595-598, 1985 英文原著
9. Kishimoto T, Yamamoto T, Shimizu G, Horiuchi N, Hirata S, Nishitani H, Mizutani Y, Yamakawa M, Yamazaki Y, Maekawa M: Cardiovascular stability in low temperature dialysis, Dial and Transplant 15: 329-330, 1985 英文原著
10. 平田純生，堀内延昭，山本忠司，趙　秀憲，今城保定，姜　宗憲，橋中保男，山川　眞: 血液透析患者の血清セレン濃度についての検討. JJPEN 10: 356-359, 1988 総説
10. 平田純生，趙　秀憲，山川　眞: 透析とセレン，臨床透析 5: 1749-1752, 1989 総説
11. 平田純生，堀内延昭，山本忠司，趙　秀憲，今城保定，姜　宗憲，橋中保男，山川　眞，岸本武利，前川正信: 慢性腎不全患者の血清セレン濃度. 透析会誌 22 : 829-834, 1989 和文原著
12. Hirata S, Horiuchi N, Yamamoto T, Cho H, Yamakawa M: Serum selenium concentrations in patients with chronic renal failure. J Trace Elements in Experimental Medicine, 2(2/3),108, 1989 抄録
13. 平田純生，堀内延昭，山本忠司，和泉　智，趙　秀憲，橋中保男，山川　眞，山本忠司，金　昌雄，山川　眞: エリスロポエチン投与による慢性腎不全患者の貧血改善と Zn, Se の血清・全血濃度の変化. JJPEN 12: 562-565, 1990 総説

## 1991 年-1995 年

1994 年になって 100 床以下の白鷺病院でも服薬指導ができるようになりました。これからが平田の薬剤師としてのスタートですが、すでに 40 歳。それまでは薬学系の学会に 1 回も参加したことがなかったダメ薬剤師でしたが、家庭では良い父親だったと思います。この時から薬剤師の業務が学会発表のネタになり、論文になる。こんなおいしいしい話はないなと夢中で仕事をしました。TDM もはじめ、簡易測定できないものは HPLC で測っていました。抄読会・症例検討会も薬剤科内で始めました。薬剤師って面白いと思い始め、毎日が充実していました。田中和彦先生・上野和行先生という指導者にも出会えました。上野先生に誘われ、年 10 回開催されるドラッグフォーラムオーサカのメンバーになりました。この時の人の出会い、経験は薬剤師としてのレベルアップのために非常に貴重でした。

14. 平田純生，堀内延昭，山本忠司，和泉　智，趙　秀憲，橋中保男，金　昌雄，山川　眞: エリスロポエチン投与による慢性腎不全患者の貧血改善と Zn, Se の血清・全血濃度の変化. Recombinant Human Erythropoietin Review and Up-date: 25-27, 1991 総説
15. Yamamoto T, Sakakura T, Yamakawa M, Horiuchi N, Hirata S, Iritani Y, Nishitani H, Kim M, Kishimoto T, Chiku T, Matsumoto T, Horio T: Clinical effects of long-term use of neutralized

dialysate for continuous ambulatory peritoneal dialysis, Nephron 60: 324-329, 1992　　英文原著

16. 和泉　智，平田純生，堀内延昭，山本忠司，　西谷博，山川　眞: 透析患者における血清セレンと活性酸素障害について Biomed Res Trace Elements 3, 197-198, 1992　　総説
17. 和泉　智，平田純生，山本忠司，金　昌雄: 微量元素と活性酸素．腎と透析 36（2），285-288, 1994　総説
18. 平田純生，田中一彦，上野和行，和泉　智，坪田貴子，浜沢三恵子，松月奈美，堀内延昭，小坂英俊，山本忠司，金　昌雄: 血中濃度のモニタリングにより Disopyramide の至適投与量を決定し得た CAPD 症例．透析会誌, 28: 1265-1268, 1995　　和文原著
19. 平田純生，田中一彦，上野和行，和泉　智，松月奈美，浜沢三恵子，堀内延昭，小坂英俊，山本忠司，金　昌雄: 慢性腎不全患者におけるジソピラミド代謝物測定の意義. TDM 研究 12:　316-320, 1995　和文原著
20. Hirata S, Tanaka K, Ueno K, Izumi S, Horiuchi N, Kosaka H, Kim M: Importance of measuring the metabolite of disopyramide in patients with renal failure. , Ther Drug Monit, 17（4）, 406, 1995　抄録

## 1996 年-1998 年

1998 年から月刊薬事で「透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ」というテーマで初めて連載させていただきました。連載中に不明熱で 64kg だった体重が 2 週間で 57kg に激ヤセ。胆道感染症と分かり 2 週間の入院中に病室を抜け出して薬局で原稿を書いていたら看護師に見つかり、病室に連行されました。この連載がのちの「透析患者への投薬ガイドブック」の基礎になりました。

**1998 年　優秀論文章受賞**
**大阪透析研究会会誌**
**牛血漿を用いた in vitro 各種血液浄化法における薬物の除去特性**
**～荷電を有する合成膜の吸着性について～**

21. 和泉　智，田中一彦，奥村道昭，平田純生，堀内延昭,上野和行，山本忠司，金　昌雄: CAPD 腹膜炎における抗生物質の投与方法. TDM 研究 13: 257-261, 1996　和文原著
22. 松月奈美，田中一彦，平田純生，和泉　智，　浜沢三恵子，杉下進一，小泉恩伶，金　昌雄: 腎・尿路系疾患専門病院における院内医薬品集の改訂．臨床透析, 12: 1699-1702, 1996　　総説
23. 平田純生，和泉　智，松月奈美，杉下進一，浜沢三恵子，小泉恩伶，田中一彦，金　昌雄: 透析病院に必要な情報を備えた院内医薬品集の作成．日本病院薬剤師会雑誌 33:　281-285, 1997　和文原著

24. 平田純生，上野和行，奥谷龍，田中一彦：ジゴキシンの投与法－腎不全､血液浄化法との関連. ICU と CCU, 21: 619-624, 1997　　総説
25. 筆本真由美，平田純生，浜沢三恵子，松月奈美，小泉恩伶，和泉　智，堀内延昭，金　昌雄：虚血性腸炎と併用薬剤．大阪透析研究会会誌, 15: 179-181, 1997　総説（優秀論文章受賞）
26. 平田純生，金　昌雄，上野和行，田中一彦：薬物の透析性. TDM 研究, 14: 277-287, 1997　　総説
27. 小泉恩伶，平田純生，和泉　智，浜沢三恵子，筆本真由美，川上美由希，堀内延昭，金　昌雄，福田全克，田中一彦：末期腎不全におけるアセタゾラミドの適正投与法. TDM 研究 14: 325-329, 1997　和文原著
28. 和泉　智，平田純生，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，　長谷川健，山川智之，箱崎裕次，山田秀太郎，金　昌雄，田中一彦:透析患者に必要な情報を備えた医薬品集とそのインターネット版の作成 ．大阪透析研究会会誌, 16: 23-27, 1998　総説（優秀論文章受賞）
29. 平田純生，杉下進一，和泉　智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，出雲谷剛，金昌雄，田中一彦：透析症例のジゴキシン中毒. TDM 研究 15: 127-128, 1998　　総説
30. 平田純生，和泉　智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，大年辰幸，瀬尾敬，金　昌雄，田中一彦：フェニトインの透析中の薬物動態を検討した一症例. TDM 研究 15: 171-172, 1998　総説
31. 和泉　智，平田純生，大年辰幸，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，山本忠司，金昌雄，田中一彦: CAPD 腹膜炎におけるバンコマイシン・セフタジジムの薬物動態．日本臨床薬理学会誌 29: 381-382, 1998　　総説
32. 筆本真由美，浜沢三恵子，小泉恩伶，川上美由希，和泉　智，平田純生，平中俊行，金　昌雄，田中一彦：透析患者における虚血性腸炎発症と併用薬剤の関係．日本臨床薬理学会誌 29: 53-54, 1998　総説
33. 平田純生：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ（1）～総論（1）プロプラノロールとアテノロールの違いから ADME を知ろう，月刊薬事 40: 1543-1553, 1998　　総説
34. 平田純生：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ（2）～総論（2）腎不全患者に特徴的な薬物動態の変化，月刊薬事 40: 1801-1811, 1998　　総説
35. 平田純生，上能伊公雄，杉山正敏，田井浩子，大村恵子，森朝紀文，井之上由美子，羽鹿公夫，久田真規子，丹家正美，奥平咲絵，遠藤勝之：今、求められる薬剤情報提供のあり方～「府民くすり相談会」におけるアンケート調査～．日本病院薬剤師会雑誌 34: 913-918, 1998　　和文原著
36. 平田純生：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ（3）～総論（3）各種血液浄化法と薬物除去に影響する諸因子，月刊薬事 40: 2291-2304, 1998　　総説
37. 杉下進一，平田純生，浜沢三恵子，和泉　智，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，堀内延昭，金昌雄，奥谷龍，田中一彦：透析症例のジゴキシン中毒．臨床透析 14: 1633-1635, 1998　　総説
38.平田純生，和泉　智，出雲谷剛，田中一彦：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ（4）～各論（1）循環器用薬，月刊薬事 40: 2567-2581, 1998　　総説
39.平田純生，和泉　智，奥野仙二，田中一彦：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ（5）～各論（2）腎不全の合併症に用いる薬物，月刊薬事 40: 2991-3002, 1998　　総説
40.和泉　智，平田純生，大年辰幸，田中一彦：透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ～（6）各論（3）抗菌薬，月刊薬事 40:3273-3285, 1998　　総説
41. 中西秀紀，平田純生，黒川尚夫，高峰利幸，崎田憲明，小北克也，岡林和美，小泉恩伶，筆本真由美，

小走佳司，山本忠司，金 昌雄，田中一彦　牛血漿を用いた in vitro 各種血液浄化法における薬物の除去特性～荷電を有する合成膜の吸着性について～. 大阪透析研究会会誌 16(2) 161-165, 1998　総説（優秀論文章受賞）

## 1999 年

**1999 年　日本 TDM 学会第 1 回優秀論文表彰受賞**

**TDM 研究**

**血液透析患者のジゴキシン様免疫反応因子（DLIS）について**

**月間薬事の連載ののち、初めての単行本「透析患者への投薬ガイドブック」が刊行。感慨深い本です。当時、野崎徳洲会病院の木村健先生と一緒に「関西腎と薬剤研究会」を立ち上げました。ちなみに木村健先生は広島県立呉宮原高校の後輩です（中国労災病院の前田頼伸薬剤部長も後輩なのです）。これが現在の日本腎臓病薬物療法学会の発足のきっかけになろうとは・・・・。**

42. 平田純生，田中一彦: TDM の有効応用: 臨床検査 43: 17-23, 1999　総説
43. 平田純生，和泉　智，前川きよし，田中一彦: 透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ (7) ～各論 (4) 中枢神経用薬その他，月刊薬事 41: 75-87, 1999　総説
44. 川上美由希，平田純生，和泉 智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，別所偉光，加藤禎一，金 昌雄，田中一彦: ファモチジンの蓄積による汎血球減少症が疑われた透析症例，臨床薬理 30 (1) , 323-324, 1999　総説
45. 平田純生,小走佳司，和泉　智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，出雲谷剛，金　昌雄，田中一彦: 血液透析患者のジゴキシン様免疫反応因子 (DLIS) について，臨床薬理 30 (1) , 297-298, 1999　総説
46. 平田純生: 「各論 I 循環器系」，病体生理からみた服薬指導の実際，北澤式文，上能伊公雄，立山一郎編，　東京，薬業時報社, 1999, p.47-60　総説
47. 平田純生，加藤禎一，金　昌雄，田中一彦: 透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ～ (8) 各論 (5) 抗癌剤，月刊薬事 41: 721-734, 1999　総説
48. 平田純生，和泉　智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，金　昌雄，田中一彦: 腎不全専門病院の病棟活動と TDM. TDM 研究 16（2）: 85-86, 1999　総説
49. 和泉　智，平田純生，大年辰幸，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，山本忠司，金昌雄，田中一彦: CAPD 腹膜炎におけるイセパマイシンの投与方法の検討.　TDM 研究 16(2): 113-

114, 1999　　総説

50. 浜沢三恵子，平田純生，和泉　智，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，出雲谷剛，金　昌雄，田中一彦: 末期腎不全患者におけるジゴキシンの血漿濃度を上昇させる要因. TDM 研究 16（2）: 85-86, 1999

51. 平田純生: TDM の活かし方, Medical Pharmacist 33（4）: 124-128, 1999　　総説

52. 平田純生，小泉恩伶，田中一彦: アセタゾラミド，日本臨床増刊「広範囲　血液・尿科学検査，免疫学的検査（第 5 版-2）－その数値を同読むか－」, 440-442, 1999　　総説

53. 平田純生，和泉　智，田中一彦，金　昌雄，山川智之編: 透析患者への投薬ガイドブック　透析と薬物療法、投与設計へのアプローチ. 東京，じほう社, p1-337, 1999　　編集著書

54. 川上美由希，平田純生，和泉 智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，別所偉光，加藤禎一，金 昌雄，田中一彦: Famotidine の蓄積による白血球減少症、血小板減少症が疑われた透析症例，臨床薬理 30(5): 745-747, 1999.　和文原著 CA

55. 黒川尚夫、平田純生，宮垣義明，中西秀紀，山田直也，高田茂一，堀内延昭，田中一彦，金　昌雄: 牛血漿を用いた *in vitro* HD における各種薬物の除去性. 臨床透析, 15: 1609-1614, 1999.　　総説

56. 平田純生,小走佳司，和泉　智，浜沢三恵子，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，出雲谷剛，金　昌雄，田中一彦: 血液透析患者のジゴキシン様免疫反応因子（DLIS）について, TDM 研究, 16: 334-339, 1999.　　和文原著　　日本 TDM 学会第 1 回論文表彰授賞

57. 平田純生，和泉　智，田中一彦: 腎不全専門病院の病棟活動と TDM, TDM 研究, 16: 319-324, 1999.　和文原著

58. 平田純生: 専門病院薬剤部に求められる機能と職能～透析センター～. 月刊薬事, 41: 2535-2538, 1999.　　総説

## 2000 年

**関西腎薬はコアなメンバーで 20～30 人くらいで勉強会ができればと思って開催した第 1 回の平田の講演会、第 2 回の講演会（当時、和歌山医大の秋澤忠男先生）ともに 200 人前後の参加者が集まり、ニーズの高さを感じました。年 5 回の開催、毎回「腎と薬剤」誌を刊行しました。秋澤先生には短期間の間に薬物療法に関する講演を 3 回もやっていただきました。4 回目をお願いしたら「もう勘弁して」と言われてしまいました。感謝！！**

59. 浜沢三恵子，平田純生，和泉　智，小泉恩伶，筆本真由美，川上美由希，出雲谷剛，金　昌雄，田中一彦: 透析患者におけるジゴキシンの血漿濃度を上昇させる要因. TDM 研究 17（1）: 61-65, 2000.　和文原著 CA

60. 川上美由希，平田純生，和泉 智，浜沢三恵子，安達真美，前川きよし，長末京子，金 昌雄，田中一

彦: 遊離型 Valproic acid (VPA) 濃度が変動する透析症例における VPA 蛋白結合率変動の要因についての検討. 臨床薬理 30: 175-176, 2000.　和文原著 CA

61. 筆本真由美, 平田純生, 和泉 智, 浜沢三恵子, 小泉恩怜, 川上美由希, 金 昌雄, 田中一彦: 透析患者におけるアシクロビルの投与方法の検討. TDM 研究 17 (2) 129-130, 2000.　総説
62. 平田純生, 他: くすりを考える力－薬剤師としての思考力・判断力. －ドラッグ・フォーラム・オーサカ編, じほう, 東京, 2000.　総説
63. 川上美由希, 平田純生, 和泉 智, 浜沢三恵子, 小泉恩伶, 筆本真由美, 別所偉光, 加藤禎一, 金 昌雄, 田中一彦: Famotidine による汎血球減少症が疑われた 2 透析症例, TDM 研究 17 (2) 133-134, 2000.　総説
64. 永田修一, 平田純生: 医薬品適正使用の適正化と TDM. 調剤と情報 6: 1491-1496, 2000　総説
65. 和泉智: 便秘の治療－下剤の使い方－. 透析ケア 6: 39-43, 2000.　総説

## 2001 年

**大学院生が白鷺病院で研修+研究するようになりました。白鷺病院研究室次長になり、臨床工学士の臨床研究にも加わって研究テーマも多彩になりました。夜中の２時まで仕事をし、８時半になったら病棟に行く。家には水曜日と金曜日に洗濯物を持って帰る。薬剤師という仕事が楽しくて仕方なかった時代の始まりです。**

**優秀論文表彰受賞**

**大阪透析研究会会誌**

**セルロース系膜ダイアライザーのβ2-MG 除去性能低下の経験**

66. 太田美由希, 和泉　智, 平田純生: 腎炎（急性・慢性）治療薬と患者への説明. 薬局（増刊・病気と薬の説明ガイド）52: 561-574, 2001　総説
67. 美濃睦子, 平田純生, 和泉　智, 安達真美, 金　昌雄, 田中一彦: 透析患者におけるアルベカシン投与方法の検討. TDM 研究 18: 129-130, 2001　総説
68. 太田美由希, 平田純生, 和泉　智, 安達真美, 金　昌雄, 田中一彦: 白鷺病院における TDM データベースの作成. TDM 研究 18: 207-208, 2001　総説
69. 平田純生, 小走佳司, 和泉　智, 川上美由希, 安達真美, 出雲谷剛, 金　昌雄, 田中一彦: 透析患者におけるジゴキシン様免疫反応因子（DLIF）上昇要因の検討. TDM 研究: 119-120, 2001　総説
70. 平田純生, 出雲谷剛, 田中一彦: 透析患者におけるジゴキシンの TDM. TDM 研究 18: 232-240, 2001　和文原著
71. Hirata S, Kobashiri K, Izumi S, Adachi M, Ohta M, Izumotani T, Kim M, Mizuta M,　Nishihori T, Tanaka K: Relationship Between Digoxin-like Immunoreactive Factors and Liver Function Tests in

Two Patients Undergoing Hemodialysis. TDM 研究 18: 291-298, 2001　　英文原著（和文誌）

72. 平田純生: ～慢性腎不全（透析導入時）～薬剤師の目で読むカルテと検査値. Hospha11: 4-8, 2001 総説
73. 辻本雅之，平田純生，和泉　智，太田美由希，安達真美，高良恒史，大西憲明，横山照由，田中一彦: 尿毒症血清中の蛋白結合阻害因子の影響について．透析医会雑誌 16: 190-195, 2001　　総説
74. 平田純生，古久保拓: 透析患者と TDM. 医薬ジャーナル 37: 2339-2346, 2001　　総説
75. 平田純生: 腎不全患者の薬物投与設計の実践. 週間・薬事新報 2169: 718-722, 2001　　総説
76. Hirata S, Adachi M, Izumi S, Ota M, Furukubo T, Kim M, Tanaka K: Influence of the surface area of the high flux dialyzer membrane on vancomycin elimination.Jpn J Ther Drug Monit 23: 478, 2001. 英文原著（和文誌）
77. 山田直也，岡林和美，中西秀紀，立山芳久，久保 彩，小北克也，平田純生，山本忠司，山川智之，金昌雄:　セルロース系膜ダイアライザーの$\beta_2$-MG 除去性能低下の経験.大阪透析研究会開始 19（2）: 145-148, , 2001.　総説（優秀論文賞受賞）
78. 太田美由希，平田純生，和泉　智，安達真美，前川きよし，田中一彦: 遊離型 Valproic acid 濃度（f-VPA）が変動する透析症例: VPA 蛋白結合率の変動要因について. TDM 研究 18（4）307-311, 2001. 和文原著 CA
79. 平田純生，奥野仙二，田中一彦: 保存期腎不全の薬物療法.腎機能悪化をいかに防ぐか？（その 1）. 月刊薬事 43（11）2407-2414, 2001.　　総説
80. 平田純生，古久保拓，奥野仙二: 保存期腎不全の薬物療法.腎機能悪化をいかに防ぐか？（その 2）. 月刊薬事 43（12）2631-2639, 2001.　　総説
81. 平田純生，和泉智，奥野仙二: 透析患者の合併症; その予防と治療. 月刊薬事 43（13）2843-2848, 2001.　　総説
82. 平田純生，太田美由希，奥野仙二: 保存期腎不全の薬物療法.腎機能悪化をいかに防ぐか？（その 3）. 月刊薬事 43（13）2911-2925, 2001.　　総説

## 2002 年

**このころから 1 年間の執筆数が 30 前後になりました。ほとんど家に帰らず、仕事が終わってから白鷺病院に泊まって論文を書いていました。1 時間かけて通う通勤電車の中で PubMed の抄録を 100 くらいプリントアウトして、重要な論文をチェック。病院に着くと図書室で論文を探し、なければ MR さんに論文を依頼するメールを出し、それを帰りの電車で精読する毎日。おかげで英文の超速読術が身に付きました。薬剤師も大学院生も研究テーマを持ちつつ薬剤師業務をこなすようになってくれました。**

**優秀論文賞受賞**

**大阪透析研究会会誌**

83. 平田純生，安達真美，奥野仙二: 保存期腎不全の薬物療法.腎機能悪化をいかに防ぐか？（その 4）. 月刊薬事 44（1）67-79, 2002. 総説
84. 平田純生，和泉智，奥野仙二: 腎機能を評価するマーカーについて. 月刊薬事 44（2）265-277, 2002. 総説
85. 平田純生，古久保拓，太田美由希: 腎不全患者の薬物投与設計（1）. 月刊薬事 44（3）: 535-545, 2002. 総説
86. 平田純生，安達真美，和泉 智: 腎不全患者の薬物投与設計（2）. 月刊薬事 44（5）: 917-926, 2002. 総説
87. 古久保 拓，平田純生，長末京子，安達真美，太田美由希，和泉 智，金 昌雄，田中 一彦: 短期間経口投与でアシクロビル中毒をきたした透析症例.臨床薬理 33: 157S-158S, 2002. 総説
88. 上西幸治，平田純生，和泉 智,古久保 拓,太田美由希，安達真美，出雲谷 剛，金 昌雄，田中一彦: 透析患者におけるジゴキシンの薬物間相互作用.臨床薬理 33: 11S-12S, 2002 総説
89. 辻本雅之，平田純生，和泉智，太田美由希，安達真美，高良恒史，大西憲明，横山照由，田中一彦:腎不全血清を用いた *in vitro* 系における蛋白結合に影響を与える諸因子の研究. TDM 研究 19（2）: 127-128, 2002. 総説
90. 平田純生，和泉 智，太田美由希，安達真美，出雲谷剛，古久保拓，金 昌雄，田中一彦: 透析患者におけるジゴキシンとクラリスロマイシンの相互作用. TDM 研究 19（2）119-120, 2002. 総説
91. 太田美由希，平田純生，和泉 智，安達真美，箱崎裕次，山川智之，金 昌雄，田中一彦:院内ネットワークにおける TDM データベースの作成. TDM 研究 19（2）: 219-220, 2002. 総説
92. 紀岡真由美, 中井由佳，宮澤隆博，乾 嗣昌，田中 肇，平田純生: Disopyramide 血清濃度高値を示した末期癌患者の 1 症例. TDM 研究 19（2）: 135-136, 2002. 総説
93. 平田純生，古久保拓，山川智之: 透析患者の薬物投与設計（1）. 月刊薬事 44（6）: 1177-1190, 2002. 総説
94. 平田純生，太田美由希，山川智之: 透析患者の薬物投与設計（2）. 月刊薬事 44（7）:1329-1339, 2002. 総説
95. 平田純生，安達真美，和泉 智: 透析患者の薬物投与設計（3）. 月刊薬事 44（8）1545-1558, 2002. 総説
96. 太田美由希，平田純生，和泉 智，安達真美，箱崎裕次，山川智之，金 昌雄，田中一彦: 院内ネットワークにおける TDM データベースの作成. TDM 研究 19（3）268-275, 2002. 総説
97. 和泉 智，平田純生，黒田美津恵，金 昌雄: 透析患者さんの服薬指導と副作用. 透析ケア 18（8）775-782, 2002. 総説
98. 金昌雄，平田純生: 4 薬物療法上（注射、経口）のミス a.処方上のミス. 透析療法のリスクマネジメント. 中外医学社，東京,125-127, 2002. 総説
99. 平田純生: 4 薬物療法上（注射、経口）のミス c.調剤上のミス. 透析療法のリスクマネジメント. 中外医学社，東京, 130-132, 2002. 総説
100. 平田純生，古久保拓，太田美由希: 透析患者の薬物投与設計（4）. 月刊薬事 44（9）: 1791-1802, 2002. 総説

101. 平田純生，安達真美，奥野仙二: 薬剤性腎障害のメカニズム（1）．月刊薬事 44（10）: 1937-1952, 2002.　　総説

102. 平田純生: 薬物管理－薬物動態の変化と投与の実際－．急性血液浄化マニュアル，東京，南江堂，p153-172, 2002.　　総説

103. 平田純生，和泉智，奥野仙二: 薬剤性腎障害のメカニズム(2)．月刊薬事 44(11): 2177-2190, 2002. 総説

104. 平田純生: TDM と投与計画．新入局病院診療所薬剤師研修テキスト．大阪病院薬剤師会，編．じほう，東京, p153-166, 2002.　　総説

105. 平田純生: 透析患者の薬物投与設計．大阪透析研究会誌 20（2）133-143, 2002.　　総説

106. 立山芳久，中西秀紀，岡林和美，平田純生，山本忠司，山川智之，金 昌雄:　透析器の安全性評価～透析器の不溶性物質の測定および同定～.大阪透析研究会 20(2):　175-178, , 2002.　総説（優秀論文賞受賞）

107. 平田純生，丸山徹，太田美由希: 蛋白結合率の変化（1）．月刊薬事 44(12): 2393-2404, 2002. 総説

108. 平田純生，丸山徹，古久保拓: 蛋白結合率の変化 (2) .月刊薬事 44(13): 2525-2533, 2002.　　総説

109. 澤田康文，段 由規彦，平田純生，小藪紀子，大谷壽一: 医療現場のファーマコキネティクス ABC 第 54 回（応用編 12）薬をどう育ててどう正しく使うか？－育薬・医薬品適正使用尾医療現場からの情報発信－.月刊薬事 44（13）2573-2588, 2002　　総説

110. 古久保 拓,平田純生，長末京子，安達真美，太田美由希，和泉 智，金 昌雄: 短期間経口投与で Acydlovir 中毒をきたした透析症例．臨床薬理 33: 277-279, 2002　和文原著 CA

111. 古久保 拓，奥野仙二，西沢良記: 活性型ビタミン D3 製剤．二瓶 宏 監修，腎疾患治療マニュアル 2002-2003 腎と透析 53 増刊号: 781-784, 2002　　総説

## 2003 年

**執筆 34 本、新刊 2 冊。このころは白鷺病院に寝泊まりして毎晩 2 時まで原著論文や原稿を書いていました。たまに午後 11 時くらいに家に帰ると息子から「お父、今日は早いな」と言われました。なんてひどい父親だったのでしょう。服薬指導 Q&A は驚異的な速さで仕上げました。白鷺病院薬剤科のメンバーは平田、和泉、古久保、太田、藤田と少人数ですが最高のレベルに達していました。**

**優秀論文賞受賞**

**大阪透析研究会会誌**

**透析排水 pH 調整装置の固形中和剤方式と薬液中和剤方式との比較**

112. 平田純生，古久保拓，藤田みのり: 腎不全患者の代謝の変化（1）.月刊薬事 45(1): 147-154, 2003. 総説

113. 平田純生，和泉智，太田美由希: 腎不全患者の代謝の変化（2）.月刊薬事 45(2): 309-317, 2003. 総説

114. 平田純生，金昌雄: 腎機能が低下している患者へ腎毒性のある薬剤投与について頼るべき指針はありますか？ EBM 腎臓病の治療 2002-2003. 秋葉隆，富野康日巳，編. 中外医学社，東京，368-379, 2003. 総説

115. 平田純生，和泉智，藤田みのり: 腎不全患者への感染症治療薬の適正使用（1）物性と薬物動態から細菌感受性が分かる？ 月刊薬事 45(3): 547-560, 2003. 総説

116. 平田純生: Letter to Editor. 早川和良，他: 透析患者の amantadine hydrochloride 中毒における血液浄化療法の経験.に対して. 透析会誌 36（5）363-364, 2003. 総説

117. 岸本武利，監修. 平田純生，編. 改訂版透析患者への投薬ガイドブック 透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ～. じほう社，東京, 2003. 編集著書

118. 上西幸治，浦田元樹，平田純生，和泉 智，太田美由希，藤田みのり，古久保拓，出雲谷 剛，金 昌雄，田中一彦: 透析患者における LBM を用いたジゴキシンの投与設計は可能か？臨床薬理 61S-62S, 2003. 総説

119. 浦中 久，森山伸一，高田茂和，加藤禎一，立山芳久，岡林和美，平田純生，金昌雄，山川智之: 透析排水 pH 調整装置の固形中和剤方式と薬液中和剤方式との比較. 大阪透析研究会誌 21: 39-42, 2003. 総説（優秀論文賞受賞）

120. 平田純生: 透析患者の抗菌薬の投与設計. 感染症と化学療法 6: 43-46, 2003. 総説

121. 平田純生，太田美由希，古久保拓: 腎不全患者への感染症治療薬の適正使用（2）腎不全と TDM 対象抗菌薬. 月刊薬事 45(4): 957-969, 2003. 総説

122. 平田純生: 透析患者における薬物動態. 薬局 54: 1779-1789, 2003. 総説

123. 平田純生: 腎不全の薬物動態的特徴と TDM の生かし方. TDM 研究 20: 89-90, 2003. 総説

124. 和泉 智，平田純生,古久保拓,安達真美，太田美由希，大年辰幸，金 昌雄，田中一彦: 透析患者の MRSA 腹膜炎に対し、テイコプラニンの TDM を実施した 1 症例. TDM 研究 20: 93-94, 2003. 総説

125. 段 由規彦，平田純生，本田友博，出雲谷剛，家入一郎，小薮紀子，大谷壽一，澤田康文: 透析患者におけるジゴキシン血中濃度の個人差と MDR1 遺伝子多型との関連性の検討. TDM 研究 20: 103-104, 2003. 総説

126. 上西幸治，平田純生，和泉 智,古久保 拓，太田美由希，安達真美，高木賢太郎，出雲谷 剛，金昌雄，田中一彦: 透析患者におけるジゴキシンと降圧薬の相互作用. TDM 研究 20: 129-130, 2003. 総説

127. 平田純生，和泉 智，古久保 拓，太田美由希，藤田みのり，出雲谷剛，金 昌雄，長谷川功，段由規彦，梅谷俊輝，大谷壽一，澤田康文: 透析患者にジゴキシンとクラリスロマイシンを併用すべきではない. 臨床薬理 34: 251S-252S, 2003. 総説

128. 古久保 拓，平田純生，藤田みのり，安達真美，和泉 智，太田美由希，山川智之，金 昌雄: 透析患者に対するバラシクロビルの適正投与法に関する検討. 臨床薬理 34: 341S-342S, 2003. 総説

129. 高木賢太郎，上西幸治,古久保 拓，平田純生，和泉智，太田美由希，安達真美，高良恒史，大西憲明，横山照由，金 昌雄，田中一彦: 血液透析膜への TDM 対象薬剤の吸着性に関する基礎的研究. TDM 研究 20: 227-228, 2003. 総説

130. 平田純生，和泉智，藤田みのり: 腎不全患者への感染症治療薬の適正使用（3）結核・真菌・ウイル

ス感染症. 月刊薬事 45(6): 1129-1143, 2003.　　総説

131. Hirata S, Matoba M, Izumi S, Furukubo T, Ota M, Fujita M, Okuno S, Yamakawa T: Elevated serum vancomycin concentrations after oral administration in a hemodialysis patient with pseudomembranous colitis. Jpn J Clin Pharmacol 34:87-90, 2003.　　英文原著（和文誌）

132. 古久保 拓, 平田純生, 和泉 智: 腎不全と抗がん剤の体内動態. 月刊薬事 45(7): 1289-1305, 2003. 総説

133. 高木賢太郎, 平田純生, 古久保　拓, 上西幸治, 和泉 智, 太田美由希, 安達真美,金　昌雄, 高良恒史, 大西憲明, 横山照由: 血液透析膜への TDM 対象薬剤の吸着性に関する基礎的検討. TDM 研究 20: 268-270, 2003.　　和文原著 CA

134. 秋澤忠男, 監修. 平田純生, 編. 服薬指導 Q and A シリーズ腎臓病編. 医薬ジャーナル社, 大阪, 2003.　　編集著書

135. 平田純生, 古久保拓, 藤田みのり: 腎不全患者の循環器合併症に用いられる薬物（1）透析患者と降圧薬・昇圧薬. 月刊薬事 45(8): 1527-1540, 2003.　　総説

136. 古久保拓, 平田純生, 和泉　智: 腎不全患者の循環器合併症に用いられる薬物（2）透析患者における心不全・不整脈とその治療. 月刊薬事 45(9): 1719-1783, 2003.　　総説

137. 平田純生, 和泉　智, 藤田みのり: 腎不全患者の合併症治療薬物の適正使用（1）. 月刊薬事 45(10): 1911-1923, 2003.　　総説

138. 南 伸治, 川村瑞, 小北克也, 岡林和美, 平田純生, 前川きよし, 山川　智之: HDF 療法における親水化 PEPA 膜ダイアライザーFDY-15ＧＷの臨床評価. 腎と透析 55 別冊、, ハイパフォーマンスメンブラン'03, 86-89, 2003.　　総説

139. 平田純生, 太田美由希, 古久保　拓: 腎不全患者の合併症治療薬物の適正使用（2）. 月刊薬事 45(11): 2111-2125, 2003.　　総説

140. Hirata S, Matoba M, Izumi S, Ota M, Furukubo T, Kim M, Tanaka K: The relationship between the surface area of the high flux dialyzer membranes and measured vancomycin elimination. Jpn J Ther Drug Monitor 20: 323-330, 2003.　　英文原著（和文誌）

141. 平田純生, 和泉　智, 奥野仙二: 腎不全患者の合併症治療薬物の適正使用（3）. 月刊薬事 45(12): 2275-2288, 2003.　　総説

142. 平田純生: マクロライド系抗生物質と CYP・トランスポーター. 薬局 54（11）: 2787-2798, 2003. 総説

143. 太田美由希, 平田純生, 山川智之: 透析患者の睡眠障害. 4..向精神薬の使い方. 透析フロンティア 13 (4) 17-21, 2003.　　総説

144. 太田美由希, 平田純生, 藤田みのり: 腎不全患者における中枢神経用薬および消化器用薬の適正使用. 月刊薬事 45(13): 2435-2448, 2003.　　総説

145. 平田純生: 多施設共同による透析患者の降圧薬処方実態調査. 透析会誌 36(12): 1683-1684, 2003. 総説

146. Uenishi K, Hirata S, Izumi S, Furukubo T, Ota M, Fujita M, Izumotani T, Kim K, Tanaka K: Interaction between digoxin and calcium channel blockers in patients undergoing hemodialysis.　Jpn J Clin Pharmacol Ther 34 (6): 323-328, 2003.　　英文原著 CA（和文誌）

# 2004 年

やっと腎不全以外の本ができました。若手の天才・古久保 拓先生とともに編集した「TDM 活用ガイド」です。これは月刊薬局の別冊であったため改訂されません。よい本なのですが……。熊本から山村蕗子先生、九万田由貴江先生、柴田啓智先生たちが白鷺病院に研修に来ていただきました。このころから熊本との縁ができつつあったのかもしれません。

**優秀論文賞受賞**

**大阪透析研究会会誌**
**透析患者におけるアシクロビル体内動態と**
**精神神経系の有害作用発現の関連性**

147. 平田純生，古久保 拓，太田美由希，腎不全と TDM 特に循環器用薬について(1). 月刊薬事 46(1): 117-130, 2004. 総説
148. 平田純生，太田美由希，藤田みのり，奥野仙二，大森俊治，谷脇愛実，北村芳子，三宅健文，閑田なるみ，原田敬子，山澤紀子，大里恭章，山岡美紅，長浜文子，木村 健，増田博也，池上英文: 多施設共同による透析患者の降圧薬処方実態調査. 透析会誌 37: 71-78, 2004. 総説
149. 太田美由希: 血液透析. 疾患別薬剤管理指導ハンドブック. エルゼゼア・ジャパン, p126-127, 東京, 2004
150. 平田純生，和泉 智，古久保拓，太田美由希，藤田みのり，奥野仙二，山川智之: 病院薬剤師による医学部 6 回生に対する臨床薬学教育. 日本病院薬剤師会雑誌 40: 187-190, 2004. 総説
151. 平田純生，和泉 智，古久保 拓: 腎不全と TDM 特に循環器用薬について(2). 月刊薬事 46(2): 293-306, 2004. 総説
152. 平田純生,古久保 拓，太田美由希: 腎不全患者の処方監査～薬剤師らしい仕事をするために～. 月刊薬事 46(3): 471-480, 2004. 総説
153. 古久保拓，太田美由希，藤田みのり，和泉 智，平田純生，山川智之: 血液透析患者に対するアシクロビル静脈内投与時の薬物動態と副作用. 臨床薬理 35（1）: 155S-156S, 2004. 総説
154. 平田純生: 病態によって変化する薬物動態を考慮した TDM. 薬局 55（4）: 1705-1714, 2004. 総説
155. 古久保拓: TDM 対象薬以外の血中薬物濃度測定の意義.薬局 55（4）: 1715-1723, 2004. 総説
156. 藤田みのり，平田純生，和泉智，古久保 拓，太田美由希，山川智之: リクセル使用により血清ジゴキシン濃度が変化しなかった 1 透析症例. TDM 研究 21（2）: 171-172, 2004. 総説
157. 平田純生，太田美由希，藤田みのり，谷脇愛実，三宅健文，大森俊治，池上英文，閑田なるみ，原田敬子，山澤紀子，大里恭章，山岡美紅，長浜文子，木村 健，増田博也: 透析患者の降圧薬選択に関する処方医への多施設共同アンケート調査. 日本病院薬剤師会雑誌 40（4）: 379-382, 2004. 和文原著

158. 平田純生: 医療の現場から～TDM を初めて実施した症例から学んだこと～. ファルマシア 40(4): 304-306, 2004.　　総説

159. 平田純生: 血液浄化法における薬物動態と薬物投与理論.「血液浄化法-基本理論と最新臨床応用」日本臨牀 62 増刊 5: 55-64, 2004.　　総説

160. 上西幸治, 平田純生, 和泉　智, 古久保拓, 太田美由希, 藤田みのり, 出雲谷 剛, 山川智之, 田中一彦: カルベジロールの併用により血清中ジゴキシン濃度が上昇した透析症例. TDM 研究 21: 244-247, 2004.　　和文原著 CA

161. Urata M, Hirata S, Uenishi K, Izumi S, Furukubo T, Ota M, Fujita M, Yamakawa T, Tanaka K: Adsorption of arbekacin on to dialysis membranes *in vitro*. Jpn J Ther Drug Monitor 21: 273-279, 2004.　　英文原著（和文誌）

162. Hirata S, Uenishi K, Izumi S, Furukubo T, Ota M, Fujita M, Yamakawa T, Ohtani H, Sawada Y: Various dosing weights and correction to serum digoxin assays in hemodialysis patients. J Pharm Tech 20:221-225, 2004.　　英文原著

163. 古久保 拓, 平田純生, 太田美由希, 藤田みのり, 和泉　智, 山川智之: 血液透析患者の帯状疱疹に対するバラシクロビルの適正投与に関する検討. 医療薬学 30: 547-552, 2004.　　和文原著 CA

164. 平田純生: 塩酸セベラマーの臨床効果とその適正使用法. 大阪透析研究会誌 22(2): 211-216, 2004.　　総説

165. 古久保 拓, 平田純生, 和泉　智, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之: 透析患者におけるアシクロビル体内動態と精神神経系の有害作用発現の関連性. 大阪透析研究会誌 22（2）: 153-157, 2004.　　総説（優秀論文賞受賞）

166. 平田純生: TDM と投与計画. 新入局病院診療所薬剤師研修テキスト改訂版. 大阪病院薬剤師会, 編. じほう, 東京, P149-164, 2004.　　総説

167. 西原 舞, 平田純生, 和泉智, 古久保　拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之, 田中一彦:透析患者の便秘症についての実態調査. 透析会誌 37: 1887-1892, 2004.　　和文原著 CA

168. 平田純生, 和泉　智, 古久保拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之:血液透析による薬物除去率に影響する要因. 透析会誌 37（10）: 1893-1900, 2004.　　和文原著

169. 平田純生, 古久保 拓 編, 奥村勝彦 監修, Q&A で学ぶ TDM 活用ガイド. 南山堂 p2-312, 東京, 2004.　　編集著書

170. 平田純生: 透析患者への薬物適正使用～ここがポイント～. 透析フロンティア増刊号 14: S4-S21, 2004.　　総説

171. 平田純生, 和泉　智, 古久保拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之: 塩酸セベラマー投与による便秘発症予防のための下剤併用法の検討. 透析会誌 37: 1967-1973, 2004.　　和文原著

172. 平田純生: 慢性腎不全患者の薬剤の使い方. 腎疾患・透析最新の治療 2005-2007. 南江堂, 東京, 331-336, 2004.　　総説

173. 和泉 智, 若杉博子: 腎不全.プロブレムリスト作成の手引き, じほう, 東京, p124-131, 2004.　　総説

174. 平田純生: 透析患者における薬物使用のポイント. HD Network10 : 1-3, 2004.　　総説

175. 平田純生: 透析導入患者さんへの服薬指導. 新人ナースのための透析導入マニュアル. メディカ出版, 大阪, 263-275, 2004.　　総説

## 2005 年

白鷺病院最後の年でした。平田にとって集大成となる仕事、600 ページを超える「腎不全と薬の使い方 Q and A」が 3 年間の月間薬事の連載をベースに書き上げました。これはそう簡単には改定できません。改訂版の発刊には竹内先生、古久保先生、大野先生、山本先生という腎薬最強メンバーの助けを借りて 15 年後に行われます。

10 月から翌年 3 月までオレゴン州立大学で客員教授として国費留学しました。なぜかオレゴンは腎に特化した薬学部教官が多かったから選びましたが、実は米国の薬局や病院薬剤部では必ず置いている Bennet Book で有名な Willam Bennet 博士がオレゴンにいて、有名な Ali Olyaei 准教授や一番お世話になった Myrna Munar 准教授などの薬学部の教官は Bennet 先生のお弟子さんたちだったのです。1 人暮らしは辛かったですがよい経験でした。Hai という生涯の友人にも巡り会えました。

**優秀論文賞受賞**

**大阪透析研究会会誌**

**透析患者の便秘と虚血性腸炎**

176. Hirata S, Izumi S, Furukubo T, Ota M, Fujita M, Yamakawa T, Hasegawa I, Ohtani H, Sawada Y: Interaction between clarithromycin and digoxin in patients with end stage renal disease. Int J Pharmacol Ther 43 (1): 30-36, 2005. 英文原著
177. 平田純生: 透析患者の薬物動態. 日本透析医会雑誌 19（3）: 505-510, 2005. 総説
178. 西原 舞, 平田純生, 山川智之: 透析患者の便秘と虚血性腸炎. 大阪透析研究会誌 23（1）: 55-59, 2005. 総説（第 63 回大阪透析研究会優秀論文賞受賞）
179. 槇野博史, 平田純生: 第 49 回日本透析医学会ワークショップより「透析患者への薬物適正使用化と服薬指導」. 透析会誌 38（2）91-104, 2005. 総説
180. 原田敬子, 平田純生, 奥平由子, 閑田なるみ, 山澤紀子, 山本員久, 上野信之, 安田英煥, 小野秀太: ラフチジンによって精神神経症状を発現した 2 透析症例. 透析会誌 38: 213-217, 2005. 和文原著 CA
181. 平田純生: 腎不全と薬の使い方 Q and A. 平田純生, 編. じほう, 東京, p1-621, 2005 編集著書
182. 平田純生: テオフィリンとシメチジンの相互作用による死亡症例から学ぶこと. 薬局 56（4）:1805-1814, 2005. 総説
183. 平田純生: 腎不全患者の薬物動態. 循環制御 26(1):29-35, 2005. 総説
184. 平田純生: リンを下げる薬ののみ方－ここがポイント. 透析とリン－長生

きのひけつ. 社団法人全国腎臓病協議会, 東京, p24-33, 2005.　　総説

185.　西川 翠, 平田純生, 古久保 拓, 西原 舞, 和泉 智, 太田美由希, 藤田みのり, 高良恒史, 大西憲明, 横山照由: 透析患者におけるテイコプラニン遊離型濃度測定上の問題点. TDM 研究 22（2）:79-80, 2005.　　総説

186.　平田純生, 和泉智, 古久保　拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之: 血液透析による薬物除去率に影響する要因. TDM 研究 22（2）:141-142, 2005.　　総説

187. 平田純生: 透析患者に要注意の薬物とその適正使用方法. コメディカルが専門医に聞きたい質問101－慢性腎不全・透析療法編. 飯田喜俊 編, 医歯薬出版, 東京,120-121, 2005.　　総説

188. 平田純生: 糖尿病の内服薬減量　1）降圧薬、高脂血症治療薬. 専門医に聞きたい　コメディカルのための糖尿病･糖尿病性腎症 Q & A. 医歯薬出版, 東京,144-145, 2005.　　総説

189. 平田純生: 糖尿病の内服薬減量　2）抗菌薬. 専門医に聞きたい　コメディカルのための　糖尿病･糖尿病性腎症 Q & A. 医歯薬出版, 東京, 144-147, 2005.　　総説

190. 平田純生: 効くはずの抗菌薬が効かない？～薬剤師だからできる PK/PD に基づいた投与設計～. 薬局 56（5）: 2011-2021, 2005.　　総説

191. 平田純生:抗菌薬の物性から抗菌スペクトルと分布特性を知る. 薬局 56（6）: 2159-2169, 2005.　総説

192. 平田純生: 疾患別薬学的治療マニュアル－腎不全編－. 日本病院薬剤師会雑誌 41（6）, 705-709, 2005.　　総説

193. 平田純生: 薬物動態の変化と対応. 腎と透析－特集 急性血液浄化療法のすべて－58(5):649－654, 2005.　　総説

194. 平田純生: 抗結核薬が単剤処方されたときの対処は？～抗結核薬の適正使用～. 薬局 56(7):2337-2345, 2005.　　総説

195. 平田純生: 相互作用により薬が効かなくなった～酵素誘導について知ろう～. 薬局 56（8）: 2483-2493, 2005.　　総説

196. 西原 舞, 平田純生, 和泉智, 古久保　拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之, 田中一彦: 血液透析患者における虚血性腸炎の発症因子に関する検討. 透析会誌 38: 1279-1283, 2005.　　和文原著 CA

197. 太田美由希, 平田純生, 和泉　智, 古久保拓, 藤田みのり, 山川智之: 医薬品添加物におけるアルミニウム（Al）含有量に関する検討. 透析会誌 38: 1337-1339, 2005.　　和文原著 CA

198. 平田純生: 食後ののむべきか食間に飲むべきか～薬物の消化管吸収について考えてみよう～. 薬局 56（9）: 2633-2644, 2005.　　総説

199. 西川 翠, 平田純生, 和泉 智, 古久保 拓, 藤田みのり, 山川智之, 高良恒史, 大西憲明、横山照由, 山川智之: 透析患者における血清遊離型テイコプラニン濃度測定上に関する基礎的検討. ＴＤＭ研究 22(4) 302-308, 2005.　　和文原著 CA

200. 平田純生: レクチャーノート：薬物血中濃度モニタリングの現状と課題～腎疾患時の投与設計へ TDM の利用～. Drug Metab Pharmacokinet 20:（4）16-18, 2005.　　総説

201. 西川 翠, 平田純生, 和泉　智, 古久保拓, 藤田みのり, 山川智之, 高良恒史、大西憲明、横山照由, 山川智之: 透析患者における MRSA 感染症の予後に影響する因子の検討. 医療薬学 31: 695-700, 2005.　　和文原著 CA

202. 平田純生: 明日から取り組む TDM. 患者特性からみた TDM の留意点～腎機能障害～. 月刊薬事

47: 1839-1844, 2005.　　総説

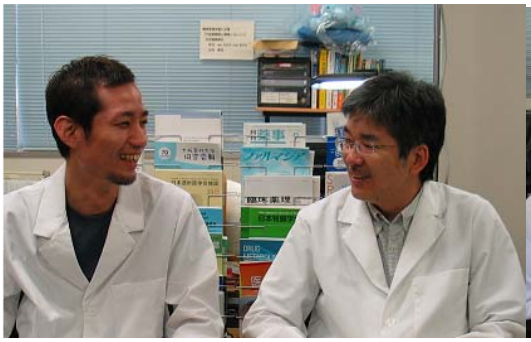
203. 平田純生: 服薬. セルフケアをする患者に伝えておきたい服薬の知識. 透析ケア 2005 年冬期増刊「透析患者のセルフケア支援」, p 95-98, 2005.　　総説

204. 鈴木正司, 小野利彦, 宍戸寛治, 平田純生, 小林 敏, 緒方晴彦: 塩酸セベラマーの適正使用をめざして～透析患者における便秘対策の意義と実際～. Pharma Medica 23(9): 65-76, 2005.　　総説

205. 平田純生: 塩酸セベラマーによる便秘とその対策.～透析患者における新たなリン管理を求めて～. JKW 2005 報告集, 腎性骨異栄養症に関する最新知見. 三原医学社, 2005　　総説

## 2006 年

**熊本大学で門脇大介先生と出会い、意気投合（写真左）。この年は米国留学のため 13 本のみの執筆と少な目です。オレゴン健康福祉大学（OHSU）図書館はサプリメントの図書がいっぱい。それらを読みあさり文献を取り寄せてサプリメントの本を初めて書きました。帰国後、宮村重幸先生、山室蕗子先生、下石和樹先生、柴田啓智先生たちと熊本腎薬を結成しました（写真中）。ボーダレスな薬学部をめざし薬剤師と薬学性が一緒に学ぶ抄読会を開催し始めたのもこの頃です。2006 年 12 月には 7 つの地域腎薬が集まって日本腎と薬剤研究会が大阪で結成されました（写真右）。**



206. 平田純生: 急性血液浄化施行中の投薬管理. 急性血液浄化徹底ガイド., 篠崎正博, 秋澤忠男, 編.,救急･集中治療 18: 189-194, 2006.　　総説

207. 和泉 智, 平田純生, 維持透析患者における薬剤性消化管障害－消化管疾患治療薬の使用上の注意－. 日本透析医会雑誌 21（1）: 49-57, 2006.　　総説

208. 平田純生, 藤田みのり, 編・著: 腎不全と健康食品・サプリメント、OTC 薬. 南江堂, 2006　　編集著書

209. 西原舞, 平田純生, 山川智之: 維持透析患者の便通異常対策（3)薬剤師の立場から. 臨牀透析 22(8): 1099-1103, 2006　　総説

210. 平田純生, 門脇大介, Charlene Bechen , Pamela J White, Carl Heisel: 日本のワルファリン投与法は間違っている？（1）薬局 57（6）: 2237-2345, 2006.　　総説

211. 平田純生, 門脇大介, Charlene Bechen , Pamela J White, Carl Heisel: 日本のワルファリン投与法は間違っている？（2）薬局 57（7）: 2487-2495, 2006.　　総説

212. Tsujimoto M, Hirata S, Dan Y, Ohtani H, Sawada Y: Polymorphisms and linkage disequilibrium of the OATP8 (OATP1B3) gene in Japanese subjects. Drug Metab Pharmacokinet 21:165-169, 2006. 英文原著

213. 平田純生, 門脇大介:薬物中毒に血液浄化法の有効な薬物と無効な薬物～（1）ジゴキシン中毒の対処法について考える～薬局 57（8）: 2655-2662, 2006.　　総説

214. 平田純生, 門脇大介:薬物中毒に血液浄化法の有効な薬物と無効な薬物～（2）重篤なシベンゾリン中毒とアマンタジン中毒の場合～. 薬局 57（9）: 2796-2806, 2006.　　総説

215. 平田純生, 門脇大介: 鎮痛療法における日米の常識の違い～アセトアミノフェンを見直してみよう～薬局 57（10）: 2969-2979, 2006.　　総説

216. 平田純生, 門脇大介: 「たかが便秘」と考えないで～下剤の不適切使用、便秘になりやすい薬物による致死性の腸管穿孔、イレウス～. 薬局 57（11）: 3131-3143, 2006.　　総説

217. 平田純生: 適切な服薬指導によって透析患者の血清リン値は確実に下がる. Farma-Chugai 3 (4): 16-18, 2006　　総説

218. 平田純生 監修：医療現場で役立つ TDM のポイント. 2006　　総説
http://tfxrrmkoffgftgrrromfkftm.shionogimed.swl.med-host.com/member/vcmtdm/index.html

## 2007 年

**この年から完全に門脇大介先生と一緒に熊本大学です。門脇先生がセベラマー便秘モデルラットを開発し、透析患者の便秘メカニズムの解明ができるようになりました。5/6 腎摘による慢性腎不全モデルラットの作成によるアセトアミノフェンの研究も始まりました。薬物の透析性に関する研究も始まりました。日本腎と薬剤研究会の第 1 回学術大会が木村 健大会長により大阪で開催されました（写真：熊本の仲間の先生方と）。**

219. Negoro S, Izumi S, Furukubo T, Satoh M, Matsunaga C, Yamakawa T, Ikegawa S, Nakanishi H, Kadowaki D, Hirata S: Interaction between activated $VD_3$ and Ca channel blockers in patients undergoing hemodialysis. Int J Pharmacol Ther 45: 186-187, 2007.　　英文原著 CA

220. 平田純生: 透析患者の薬の用い方. 透析療法パーフェクトガイド. 医歯薬出版, 東京 p274-275, 2007　　総説

221. 平田純生: 催眠薬・抗不安薬. 透析療法パーフェクトガイド. 医歯薬出版, 東京 p284-285, 2007

総説

222. 平田純生: 抗菌薬、抗真菌薬、抗結核薬、抗ウイルス薬: 透析療法パーフェクトガイド. 医歯薬出版,東京 p294-302, 2007　　総説

223. 平田純生: 抗がん薬: 透析療法パーフェクトガイド. 医歯薬出版, 東京 p301, 2007　　総説

224. 平田純生: 透析患者さんからよく聞かれる服薬についての素朴な疑問. 透析ケア 13（2）145-149, 2007　　総説

225. 平田純生: 腎機能低下時における薬物治療について., Ｎｏ.5, 平成 19 年 3 月発行, 医薬品情報 P10-18, 2007　　総説

226. 平田純生, 門脇大介: 緊急提言：CKD を腎不全に進行させない薬物療法～（1）～虚血性腎障害起因薬物の投与忌避 Part1～. 薬局 58（5）: 115-125, 2007.　　総説

227. 平田純生, 門脇大介: 緊急提言：CKD を腎不全に進行させない薬物療法～～（1）～虚血性腎障害貴院薬物の投与忌避 Part2～. 薬局 58（7）: 149-159, 2007.　　総説

228. 平田純生:透析患者と健常者の薬物動態の違い 薬局 58（8）: 2364-2370, 2007.　　総説

229. 平田純生: 高齢透析患者に対する薬物療法上の留意点. 臨牀透析 27(8): 1317-1324, 2007　　総説

230. Matsunaga C, Izumi S, Furukubo T, Satoh M, Yamakawa T, Uchida T, Kadowaki D, Hirata S: Effect of famotidine and lansoprazole on serum phosphorus levels in hemodialysis patients on calcium carbonate therapy. Clin Nephrol 68: 93-98, 2007　　英文原著 CA

231. 平田純生: 薬物代謝酵素の多型. 透析患者の検査値の読み方, 411-414, 日本メディカルセンター, 東京, 2007　　総説

232. 平田純生: 透析患者さんと薬剤. 腎不全を生きる 35: 44-48, 2007　　総説

233. 平田純生, 門脇大介: 緊急提言：CKD を腎不全に進行させない薬物療法～（1）～虚血性腎障害起因薬物の投与忌避 Part3～.. 薬局 58（10）: 2807-2818, 2007.　　総説

234. 平田純生: 薬物の排泄に関する要因の見方. 月刊薬事 49: 1307-1314, 2007　　総説

235. 平田純生, 門脇大介: 緊急提言：CKD を腎不全に進行させない薬物療法～（2）腎毒性薬物の投与忌避. 薬局 58（11）: 3010-3121, 2007.　　総説

236. 平田純生: 患者がビタミン剤を飲む際の注意点. 透析患者の食事指導, 透析ケア冬季増刊 204-207,2007　　総説

237. 平田純生: 患者がカルシウム剤を飲む際の注意点. 透析患者の食事指導, 透析ケア冬季増刊 208-209,2007　　総説

238. 平田純生: 患者がＬ-カルニチンを飲む際の注意点. 透析患者の食事指導, 透析ケア冬季増刊 210-211,2007　　総説

239. 平田純生: 腎機能（BUN, Cr, UA など）. 知っておきたい臨床検査値. 東京化学同人, 25-27, 2007　　総説

240. 平田純生: 電解質（Na, Cl, K, Ca, IP, Mg など）. 知っておきたい臨床検査値. 東京化学同人, 27-31, 2007　　総説

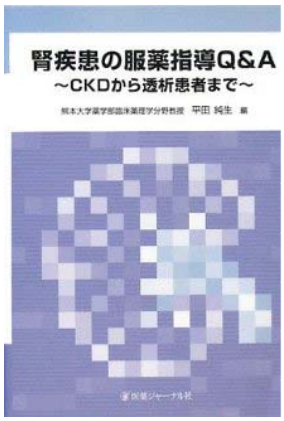
241. 平田純生: 鉄代謝（血清 Fe, TIBC, UIBC、フェリチンなど）. 知っておきたい臨床検査値. 東京化学同人, 31-33, 2007　　総説

日本薬学会編; 入江徹美, 安藤由喜雄, 木村 健, 後藤順一, 平田純生, 丸山 徹, 編: 知っておきたい臨床検査値. 東京化学同人, 1-241, 2007　　編集著書

## 2008 年

**熊本で第 2 回日本腎と薬剤研究会を開催しました（写真）。腎疾患の服薬指導 Q&A は熊本の仲間と一緒に作りました。5/6 腎摘ラットを用いたアセトアミノフェンの腎への影響に関する研究が順調に進みました。熊本大学附属育薬フロンティアセンター長を兼任するようになりました。**

242. 平田純生編: 腎疾患の服薬指導 Q&A～CKD から透析患者まで～. 医薬ジャーナル, 大阪, P1-379, 2008　　編集著書




243. 平田純生, 和泉 智, 三宅健文, 鎌田直博, 宮村重幸, 竹内裕紀, 長谷川 功: 高齢者および慢性腎疾患患者への適正な薬物療法に関する調査・研究～重篤な腎障害に関する禁忌薬物に関する調査～. 日本病院薬剤師会雑誌 44: 32-34, 2008　　総説

244. 平田純生, 濟川聡美: 見直すべき添付文書上の「腎障害には禁忌」の表現.薬事日報 2509: 5-6, 2008　　総説

245. 平田純生: CKD の腎機能低下時における薬物療法について. Medical Practice 25: 295-303, 2008.　　総説

246. 平田純生: 慢性腎臓病（CKD）患者の薬物療法. 臨床薬理: 39（2）11S-12S, 2008　　総説

247. 平田純生, 長谷川 功, 田中章郎: 腎機能低下時の薬剤投与量. CKD 診療ガイド 2008, 東京医学社, p88-104, 2008　　総説

248. 平田純生:「科学する薬剤師」を育て、CKD の薬物療法のエキスパートに！. 日病薬誌 44 (3) :389-391, 2008　　総説

249. 平田純生, 三宅健文: 日本透析医学会コメディカルシンポジウムより「透析患者への薬物適正使用」. 「透析患者への薬物適正使用」を総括して. 透析会誌 41（3）: 169, 2008　　総説

250. 門脇大介，平田純生：第 52 回日本透析医学会コメディカルシンポジウムより「透析患者の予後・QOL を改善する薬物適正使用」.透析会誌 41（3）：170-171, 2008　　総説

251. 平田純生：薬物中毒における血液浄化法の薬物動態的評価．中毒研究 21（2）：105-113, 2008　総説

252. 平田純生，門脇大介：症例から処方を考える～薬剤師が薬剤師らしい仕事をするために～第 17 回．CKD 患者における高尿酸血症・痛風治療薬、クラリスロマイシンの相互作用について．薬局 59(5): 2295-2301, 2008　　総説

253. 島　祐子，平田純生，奥田洽爾：入院患者におけるチアプリドの投与量－1 日 25mg でも要観察－．日本病院薬剤師会雑誌 44（5）747-749, 2008　　和文原著 CA

254. 平田純生：腎機能障害時の降圧薬の使用方法．腎と透析 65（2）281-285, 2008　　総説

255. 平田純生：透析患者の薬物適正使用．西沢良記編，最新透析医学，医薬ジャーナル，大阪，P502-506, 2008　　総説

256. 平田純生：慢性腎不全時の薬剤使用で注意すべきこと抗菌薬, NSAIDs、造影剤など－．診断と治療, 96（8）, 1535-1541、2008　　総説

257. 平田純生：透析患者における薬剤の適正使用．日本透析医会雑誌 23 (2) 275-283, 2008　　総説

258. 平田純生，和泉 智，三宅健文，鎌田直博，宮村重幸，竹内裕紀，長谷川 功：学術委員会学術第 8 小委員会報告　高齢者および慢性腎疾患患者への適正な薬物療法に関する調査・研究～重篤な腎障害に関する禁忌薬物に関する調査～.第 1 報 日本病院薬剤師会雑誌 44: 1162-1163, 2008　　総説

259. 小泉 晶子，平田純生，藤田みのり，久郷泰祐，岸本百代，桐山恵理子，和泉 智，古久保 拓，松永千春，小熊恵美子，山川智之：血液透析患者における血清リン濃度および透析歴と炭酸カルシウムの服薬コンプライアンスの関係．日本病院薬剤師会雑誌 44 (9) 1365-1368, 2008　　和文原著 CA

260. Tsujimoto M, Kinoshita Y, Hirata S, Otagiri M, Ohtani H, Sawada Y.: Effect of uremic serum and uremic toxins on hepatic uptake of digoxin. Ther Drug Monitor 30: 576-582, 2008　　英文原著

261. Tsujimoto M, Dan Y, Hirata S, Ohtani H, Sawada Y.: Influence of SLCO1B3 gene polymorphism on the pharmacokinetics of digoxin in terminal renal failure. Drug Metab Pharmacokinet 23: 406-411, 2008　　英文原著

262. 佐藤みのり，平田純生：α リポ酸．臨牀透析 24:1737-1739, 2008　　総説

263. 平田純生：透析患者の指を招くサプリメント”青汁”．臨牀透析 24: 1772-1773, 2008　　総説

264. 平田純生：抗酸化ビタミンは必要．だけど摂りすぎはよくない抗酸化ビタミン ACE の功罪．　臨牀透析 24:1790-1791, 2008　　総説

265. 平田純生：どのサプリメントを摂るべきか．臨牀透析 24: 1756-1757, 2008　　総説

266. 平田純生：血液浄化法と薬物投与．腎と透析－血液浄化－2009. 65S: 740-745, 2008　　総説

267. 門脇大介，平田純生：糸球体腎炎．薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book　2008 .59（4）：432-436, 2008

268. 門脇大介，平田純生：ネフローゼ症候群．薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book　2008 .59（4）:443-445, 2008　　総説

269. 門脇大介，平田純生：腎不全 薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book　2008 .59（4）：453-456, 2008　　総説

## 2009 年

この年は死にそうなくらい忙しかったと思ったら 57 本書いていました。そのうち単行本が 2 本。そりゃ忙しくなるはずです。ナース向けの連載もはじめたのが多忙の原因だと思いますが、わかりやすく書くって、簡単そうで難しいです。二の丸公園で花見をしました（写真左）。育薬フロンティアセンターの模擬薬局の竣工式がありました（写真右）。OSCE の本試験が初めて行われたのもこの年です。

270. Satoh M, Izumi S, Koizumi A, Kugoh Y, Kiriyama E, Oguma E, Furukubo T, Matsunaga C, Yamakawa T, Kadowaki D, Hirata S: Improvement of hyperphosphatemia following patient education. J Pharmacy Tech 25(1) : 3-9, 2009　英文原著 CA
271. 平田純生: 慢性腎臓病（CKD）における薬物体内動態の特性と薬物治療. 臨床への薬物動態学. 廣川書店, 東京, p97-122, 2009　総説
272. 宮村重幸, 平田純生: 透析患者における抗菌薬の適正使用-抗 MRSA 薬を中心に-. 感染症 39（2）: 24-28, 2009　総説
273. 門脇大介, 平田純生: 糸球体腎炎. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book2009. 60（4）: 1013-1016, 2009　総説
274. 門脇大介, 平田純生: ネフローゼ症候群. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book2009. 60（4）: 1017-1025, 2009　総説
275. 門脇大介, 平田純生: 腎不全 薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book2009. 60（4）: 1033-1036, 2009　総説
276. 門脇大介, 平田純生: 薬剤性腎症. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクト Book2009. 60（4）: 1053-1054, 2009　総説
277. 平田純生, 和泉　智, 三宅健文, 鎌田直博, 宮村重幸, 竹内裕紀, 長谷川 功: 学術第 7 章委員会 高齢者および慢性腎臓病患者への適正な薬物療法に関する調査～第 2 報～. 日本病院薬剤師会雑誌 45: 27-30, 2009　総説
278. 平田純生: 透析患者の薬物適正使用. 大阪透析研究会誌 27（1）11-16, 2009　総説
279. 田中章郎, 平田純生: 腎機能障害患者への薬物療法における薬剤師が果たすべき役割. からだの科学増刊, 100-109, 2009　総説

280. 門脇大介，平田純生: 経口活性炭剤．腎不全ハンドブック-CKD から先端透析療法：up to date，医薬ジャーナル社，大阪，p 99-100, 2009　　総説

281. 門脇大介，平田純生: ループ利尿薬．腎不全ハンドブック-CKD から先端透析療法：up to date，医薬ジャーナル社，大阪, p 101-102, 2009　　総説

282. 門脇大介，平田純生: 高カリウム血症とイオン交換樹脂．腎不全ハンドブック-CKD から先端透析療法：up to date，医薬ジャーナル社，大阪, p 103-104, 2009　　総説

283. Kadowaki D, Anraku M, Tasaki Y, Taguchi K, Shimoishi K, Seo H, Hirata S, Maruyama T, Otagiri M.: Evaluation for antioxidant and renoprotective activity of olmesartan using nephrectomy rats. Biol Pharm Bull. 32(12): 2041-2045 ,2009　　英文原著

284. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．第 1 回　貧血治療薬　①エリスロポエチン製剤の誕生．透析ケア 15（1）60-62, 2009　　総説

285. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．第 2 回貧血治療薬　②進化しつつあるエリスロポエチン（ESA; 赤血球造血刺激因子製剤）．透析ケア 15（2）186-188, 2009　　総説

286. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．第 3 回　貧血治療薬　③エリスロポエチンが効かない！エリスロポエチン低反応例に対する対処．透析ケア 15（3）286-289, 2009　　総説

287. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．4 回　リン吸着薬　①沈降炭酸カルシウム（カルタン®）．透析ケア 15（4）360-362, 2009　　総説

288. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．5 回　リン吸着薬　②沈降炭酸カルシウムの服薬指導のむずかしさ．透析ケア 15（5）514-517, 2009　　総説

289. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱．6 回　リン吸着薬　③セベラマー塩酸塩（レナジェル®、フォスブロック®）．透析ケア 15（6）642-644, 2009　　総説

290. 平田純生:リン吸着薬はのむタイミングが大切．やさしい透析患者のためのリン･カルシウム代謝の自己管理．医薬ジャーナル，大阪, p24-26, 2009　　総説

291. 平田純生: 活性型ビタミン D 服用時の注意点．やさしい透析患者のためのリン･カルシウム代謝の自己管理．医薬ジャーナル，大阪, p32, 2009　　総説

292. 平田純生: カルシウム感知受容体作動薬：シナカルセト（商品名；レグパラ®）服用時の注意点.やさしい透析患者のためのリン･カルシウム代謝の自己管理．医薬ジャーナル，大阪，p33，2009　総説

293. 平田純生: 薬物濃度(TDM)．　透析患者の検査と検査値.. 透析ケア 2009 夏季増刊号，メディカ出版，p 136－143, 2009　　総説

294. 田中章郎，平田純生: CKD と薬剤．透析医のための CKD マネジメント: 透析導入後の予後向上を目指して．中外医学社，東京, p34-46, 2009　　総説

295. 平田純生:CKD を合併した疾患の治療、薬剤の使用法一覧，腎と透析「CKD のすべて」，東京医学社, 2009　　総説

296. 平田純生，和泉 智，三宅健文，鎌田直博，宮村重幸，竹内裕紀，長谷川 功: 平成２０年度学術委員会　学術第 7 小委員会報告「高齢者および慢性腎臓病患者への適正な薬物療法に関する調査･研究」～「重篤な腎障害に関する禁忌薬物に関する調査・第 2 報～日本病院薬剤師会雑誌: 45：1023-1026, 2009　　総説

297. 平田純生: 薬物投与．エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン．日本腎臓学会編，東京医学社，

p270-280, 2009　　総説

298. 平田純生編:透析患者のくすり　ナースが知りたい Q&A64. 透析ケア 2009 冬季増刊号, メディカ出版, p 136－143, 2009　　総説

299. 平田純生: アルミニウムを含有する食物と薬剤. 透析療法事典第 2 版, p249-250, 医学書院, 2009 総説

300. 平田純生: CKD 患者への薬剤投与 透析療法事典第 2 版, p370-371, 医学書院, 2009　　総説

301. 平田純生, 長谷川 功, 田中章郎, 柴田佳菜子: 腎機能低下時の薬剤投与量. CKD 診療ガイド 2009, 東京医学社, p92-113, 2009　　総説

302. 平田純生: 透析患者に対する薬の使用法 総論 活性代謝物質の蓄積. 透析療法事典第 2 版, p482, 医学書院, 2009　　総説

303. 平田純生: 透析患者に対する薬の使用法 総論 投薬上特に注意を要する薬剤. 透析療法事典第 2 版, p497-500, 医学書院, 2009　　総説

304. 平田純生: 透析患者に対する薬の使用法 総論 透析患者の薬物動態. 透析療法事典第 2 版, p481-482, 医学書院, 2009　　総説

305. 平田純生, 和泉 智, 古久保 拓, 編: 改訂 2 版 透析患者への投薬ガイドブック. じほう, 東京, 2009　　編集著書

306. 平田純生: 腎不全時の薬物投与の実践的知識. Intensivist 1（3）603-610, 2009 総説

307. 平田純生: なぜ CKD が問題なのか？月刊薬事 51: 1105-1107, 2009　　総説

308. 平田純生: なぜ今、CKD が問題なのか？Pharma Medica 27（Supple1）1-5, 2009　　総説

309. 平田純生: 手術および観血的手技前の抗血栓薬の中止のポイント～臨床薬理学的立場より～. 日本透析医会雑誌 24（2）253-258, 2009　　総説

310. 平田純生: 疼痛ナビ 14, フロンティアセミナー: 腎障害におけるアセトアミノフェンの使用 http://www.e-paincontrol.com/main/1_frontierseminar/dai_14/14.php, 2009　　総説

311. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 7 回　リン吸着薬その 4　～ホスレノール®（炭酸ランタン）～. 透析ケア 15（7）746-748, 2009　　総説

312. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 8 回　活性型ビタミン D～最近最も注目されている新しい作用～ 透析ケア 15（8）852-855, 2009　　総説

313. 平田純生: 薬物濃度（TDM）. 透析患者の検査と検査値、透析ケア夏季増刊号 136-142, 2009 総説

314. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 9 回　レグパラ®：カルシウム、リンを上げることなく PTH を下げる薬です. 透析ケア 15（9）952-955, 2009　　総説

315. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 10 回　透析患者のかゆみに使うくすり. 透析ケア 15（10）1062-1065, 2009　　総説

316. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 11 回　高カリウム血症とカリウム抑制薬. 透析ケア 15（11）1160-1163, 2009　　総説

317. 平田純生：　腎機能別薬剤投与量一覧. 松山賢治, 阿南節子 監修, 阿南節子, 櫻井美由紀, 徳島裕子, 河野えみ子, 黒山政一, 木村 健, 平田純生, 編: ハイリスク治療薬 2010. P1127-1157, じほう,

東京, 2009　　編集著書

318. 平田純生: 腎不全における薬物投与法. 内科学書新訂第 7 版, 中山書店, p429-432, 2009　　総説

319. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 12 回　透析患者の便秘①～刺激性下剤は高齢者には最適だが、連用には注意を～. 透析ケア 15（12）1276-1279, 2009　　総説

320. 平田純生 編著: ナースが知りたい透析患者のくすり Q&A64. 透析ケア 2009 年冬季増刊, MC メディカ出版, 大阪, p1-249, 2009　　編集著書

321. 平田純生: 薬剤の使用一覧. 腎と透析 2009 年増刊号, CKD を合併した疾患の治療. P505-517, 2009　　総説

## 2010 年

**門脇大介先生が講師になりました。薬剤師も医師も参加して行われる抄読会の会場は模擬薬局で開催されるようになりました（写真）。昨年より OSCE 実行委員長になり大学でも超多忙でした。各地の腎と薬剤研究会も 10 か所以上になりました。「腎臓病薬物療法専門薬剤師制度」を確立するため、「日本腎臓病薬物療法学会」の設立を模索し始めました。**

322. 竹末芳生, 谷川原祐介, 小林昌宏, 三鴨廣繁, 木村利美, 平田純生, 白石 正, 栄田敏之, 高倉俊二: Vancomycin の Therapeutic drug monitoring（TDM）実施に関する抗菌療法認定薬剤師制度認定委員会ならびに抗菌薬標準化ワーキングの見解. 日化療会誌 58(1): 18-19, 2010　　総説

323. 平田純生, 和泉 智: 第 54 回日本透析医学会シンポジウムより「透析における薬物投与の問題点」を総括して. 透析会誌 43（1）: 37, 2010　　総説

324. 古場清貴, 狩野美香, 竹澤真吾, 平田純生: 薬物の透析性は予測可能か？透析会誌 43（1）: 43-45, 2010.　　総説

325. 田中章郎, 平田純生: 腎不全患者への薬物投与の注意点. 綜合臨床, 綜合臨牀 59(6): 1450 -1456 , 2010　　総説　　総説

326. 平田純生: 透析導入患者への服薬指導. 新人ナースのための透析導入マニュアル. 斉藤 明監修, MC メディカ出版, 大阪, p223-p233, 2010　総説

327. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 13 回　透析患者の便秘②～便秘が原

因の腸閉塞、虚血性腸炎による腸管穿孔～. 透析ケア 16（1）90-93, 2010　　総説

328. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 14 回　透析患者の便秘③～便秘のタイプに応じた下剤の使い分け～. 透析ケア 16（2）162-1166, 2010　総説

329. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 15 回　降圧薬①～降圧薬の前に「血圧」について知ろう～. 透析ケア 16（3）281-284, 2010　　総説

330. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 16 回　降圧薬②レニン－アンジオテンシン系阻害薬～ACE 阻害薬と ARB を中心に～. 透析ケア 16（4）421-424, 2010　　総説

331. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 17 回　降圧薬③β 遮断薬・利尿薬・アルファ遮断薬. 透析ケア 16（6）686-689, 2010　　総説

332. 平田純生: 教えて！薬剤師さ～ん！透析患者のくすり箱. 第 18 回　降圧薬④カルシウム拮抗薬と降圧薬のまとめ. 透析ケア 16（7）818-821 2010　　総説

333. 小林昌宏, 竹末芳生, 谷川原祐介, 三鴨廣繁, 木村利美, 平田純生, 白石 正, 栄田敏之, 高倉俊二: 抗 TDM 薬の TDM に関する全国アンケート調査. 日化療会誌 58（2）119-123, 2010　　総説

334. 平田純生: PD 患者の薬物療法およびサプリメントの活用法. 奈良県医師会透析部会誌 15(1) 13-22, 2010　　総説　　総説

335. 門脇大介, 平田純生: 糸球体腎炎.～薬物療法管理の留意点～. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010 61（4）: 509-512, 2010　　総説

336. 門脇大介, 平田純生: ネフローゼ症候群.～薬物療法管理の留意点～. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010. 61（4）: 519-521, 2010　　総説

337. 門脇大介, 平田純生: 慢性腎不全.～薬物療法管理の留意点～. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010. 61（4）: 529-532, 2010　　総説

338. 門脇大介, 平田純生: 薬剤性腎症.～薬物療法管理の留意点～. 薬局増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010. 61（4）: 549-550, 2010　総説

339. 平田純生: 急性血液浄化施行中の投薬管理. 急性血液浄化法徹底ガイド　第 2 版, 篠崎正博, 秋澤忠男, 編.,救急･集中治療., 総合医学社, 東京, p205－211, 2010　2010.06.12 発行　総説

340. 田中章郎, 平田純生: 腎不全患者への薬物投与の注意点. 綜合臨牀 特集「腎不全を診る」, 59(6): 1450-1456, 2010　　総説

341. 竹内裕紀, 平田純生: 薬剤師から見た投薬の仕方―薬剤選択の注意と実際. 腎と透析, 69: 351-357, 2010　総説　2010/10/26

342. 平田純生: 透析患者における消化器系薬剤の使用. EBM 透析療法 2010－2011, 中外医学社, 東京, p 248-251, 2010　　総説

343. 平田純生: 透析患者の薬の用い方. 透析療法パーフェクトガイド　第 2 版 p296-301, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2010　　総説

344. 平田純生, 木村 健, 三宅健文: 主な薬の服用方法と注意点. 透析療法パーフェクトガイド　第 2 版 p302-339, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2010　　総説

345. 平田純生: 腎疾患関連薬剤一覧. 腎疾患・透析 最新の治療 2011－2013, p419-423, 南江堂, 東京 2011　2010.03.01 発行　総説

346. 平田純生: 腎機能低下時の主な薬剤投与量一覧. 腎疾患・透析 最新の治療 2011－2013, p424-446, 南江堂, 東京 2011　2010.03.01 発行　総説

347. 平田純生: クラリスロマイシンと P-糖蛋白基質. 薬局 61（8）, 2852-2861, 2010　総説

348. 太田美由希，平田純生: 腹膜透析患者の薬剤処方．腹膜透析実践マニュアル，診断と治療社，東京，P159-165, 2010　　総説

349. 平田純生：特殊病態下における抗菌療法 ．a.透析患者．日本化学療法学会: 抗菌化学療法認定薬剤師テキスト～薬剤師が知っておきたい感染症と抗菌化学療法～．日本化学療法学会，東京，p206－213, 2010　　総説

350. Tsujimoto M, Higuchi K, Shima D, Yokota H, Furukubo T, Izumi S, Yamakawa T, Otagiri M, Hirata S, Minegaki T, Takara K, Nishiguchi K: Inhibitory effects of 3-indoxyl sulfate and *p*-cresol on losartan metabolismin vitro. J Pharm Pharmacol, 62(1): 133-138, 2010　原著

351. Kondo Y, Ishitsuka Y, Kadowaki D, Nagatome M, Saisho Y, Kuroda M, Hirata S, Irikura M, Hamasaki N, Irie T: Phosphoenolpyruvic acid, an intermediate of glycolysis, attenuates cellular injury induced by hydrogen peroxide and 2-deoxy-d-D-glucose in the porcine proximal kidney tublar cell line, LLC-PK1. J Health Sci 56(6) 727-732, 2010　英文原著

352. 平田純生 編: CKD（慢性腎臓病）の治療と薬 Q&A., じほう，東京，2010　編集著書

353. 平田純生：　腎機能別薬剤投与量一覧．松山賢治，阿南節子 監修，阿南節子，櫻井美由紀，徳島裕子，河野えみ子，黒山政一，木村 健，平田純生，編: ハイリスク治療薬 2011．じほう，東京，2010　　編集著書

## 2011 年

**成田勇樹先生が助手に就任（写真左前列左から 2 番目が成田先生）、やっと 3 人体制になりました。薬物の透析性に関する研究も軌道に乗り、英語論文にもなりました。毎年 3 月にゆめタウンで行われる世界腎臓デイのイベントには宮村先生と参加しました（写真中）。恒例の夏休みの研究室旅行では学生たちが意味不明のダンスを踊ってくれました（写真左）。**

354. 平田純生：　腎機能別薬剤投与量一覧．松山賢治，阿南節子 監修，阿南節子，櫻井美由紀，徳島裕子，河野えみ子，黒山政一，木村 健，平田純生，編: ハイリスク治療薬 2012．　P1224-1247，じほう，東京，2011　　著書　　編集著書

355. 門脇大介，平田純生：糸球体腎炎 薬物療法管理のポイント、服薬指導のポイント.薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2011. 62(4)：1044-1045, 2011　総説

356. 門脇大介，平田純生：ネフローゼ症候群 薬物療法管理のポイント、服薬指導のポイント.薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2011. 62(4)：1053, 2011 総説

357. 門脇大介，平田純生：腎不全 薬物療法管理のポイント、服薬指導のポイント. 薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2011. 62(4)：1063-1064, 2011　総説

358. 門脇大介，平田純生：薬剤性腎症 薬物療法管理のポイント、服薬指導のポイント.薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2011. 62(4)：1086, 2011　総説

359. 宮村重幸，平田純生: 腎機能低下時における抗菌薬治療 今すぐ実践したい周術期管理と抗菌薬適正使用. 竹末芳生 編，医薬ジャーナル，大阪, P408-P414, 2011　総説

360. Tanoue K, Nishi K, Kadowaki D, Hirata S: Removal of doripenem during hemodialysis and the optimum dosing regimen for patients undergoing hemodialysis. Ther Apher Dial, 15（3）: 327-33, 2011　英文原著 CA

361. 田中章郎，平田純生: 薬を投与する際に注意することは？若手医師のための透析診療のコツ，加藤明彦 編，文光堂，東京 P50-P63, 2011　総説

362. 田中章郎，平田純生: 透析患者の薬物動態. 腎と透析 70（4）: 472-477, 2011.　総説

363. 田中章郎，平田純生: 透析医療に必要な薬の使用法・注意点一覧表. 腎と透析 70(4): 685-715, 2011. 総説

364. Zhang JS, Kadowaki D, Nonoguchi H, Hirata S, Seo H, Imai T, Suenaga A, Chuang G, Otagiri M: Toxicodynamic evaluation of a cisplatin-chondroitin sulfate complex using a perfused kidney and human proximal tubular cells. Renal Failure 33 (6): 609-614, 2011　英文原著

365. 新留将吾，草野充裕，狩野美香，陣上祥子，福永栄子，宮村重幸，入江英治，門脇大介，平田純生：バンコマイシン投与設計における各種腎機能推算式の体格補正の必要性についての検討. TDM 研究, 28（4）92-101, 2011　和文原著 CA

366. 平田純生: 腎障害時における抗菌薬の適正使用. 薬剤師のための感染制御マニュアル第 3 版. 薬事日報, P193-P202，東京, 2011　総説

367. 平方秀樹，新田孝作，友　雅司，秋葉　隆，伊苅裕二，井関邦敏，稲葉雅章，井上　亨，熊田佳孝，小林修三，常喜信彦，庄司哲雄，椿原美治，鶴屋和彦，田部井薫，西村眞人，長谷弘記，平田純生，藤井秀毅，藤元昭一，横井宏佳，島本和明，久木山清貴: （社）日本透析医学会「血液透析患者における心血管合併症の評価と治療に関するガイドライン」. 透析会誌 44（5）: 337-425, 2011　総説

## 2012 年

13 の地域腎薬が集まり日本腎臓病薬物療法学会が結成されました（写真左）。当面の目標は腎臓病薬物療法認定薬剤師制度の確立です。熊薬での研究は腎不全モデルラットを用いたアセトアミノフェンの研究が門脇先生によって論文になり、脇大介先生は准教授に就任しました。アンサンブル部のコンサートが好きなのでいつも行っていたら顧問になってしまいました（写真中）。この年の卒業式です（写真右）

368. 磯部邦彌，山田克弘，山本光孝，平田純生：血液透析患者におけるポリスチレンスルホン酸ナトリウムと炭酸カルシウムの相互作用. 日本病院薬剤師会雑誌 48（3）323－327, 2012　　和文原著 CA

369. 尾田一貴，平田純生，竹下祐介: 高齢者におけるバンコマイシンの早期定常状態の血中濃度測定によるベイズ推定に基づくシミュレーションの予測精度. TDM 研究 29(1): 7-13, 2012　　和文原著

370. 平田純生: 透析患者の合併症治療薬の適正投与(解説). 医薬の門 52（2）106-110, 2012（2012.05）　総説

371. 門脇大介，平田純生，成田勇樹: 尿酸代謝における Up-to-Date(第 5 回)尿酸と酸化ストレスの関連とベンズブロマロン、基礎から臨床へ. 医薬の門 52（5）374-377, 2012 (2012.11)　　総説

372. 平田純生編: 腎疾患の服薬指導 Q&A～CKD から透析患者まで～改訂版. 医薬ジャーナル，大阪，P1-503, 2012　　編集著書

373. 平田純生，甲田 豊: 第 56 回日本透析医学会ワークショップ 8「透析患者の薬物適正使用～現状の問題点について考える～」透析会誌 45（2）:115-116, 2012　　総説

374. 平田純生: 慢性腎臓病患者への薬物至適投与～新たな展開～ . YAKUGAKU ZASSHI 132（4）461-470, 2012　　総説

375. 門脇大介，平田純生：糸球体腎炎. 薬物療法管理のポイント.薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2012. 63(4)：982-983, 202　　総説

376. 門脇大介，平田純生:ネフローゼ症候群 薬物療法管理のポイント. 薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2012. 63(4)：991, 2012　　総説

377. 門脇大介，平田純生：腎不全 薬物療法管理のポイント、薬局増刊号病気と薬パーフェクトブック 2012. 63(4)：1001-1002, 2012　　総説

378. 門脇大介，平田純生：薬剤性腎症 薬物療法管理のポイント、薬局増刊号病気と薬パーフェクトブ

ック 2012. 63(4)：1009, 2012　　総説

379. 平田純生: 透析患者の薬の用い方. 透析療法パーフェクトガイド　第 3 版 p298-301, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2012　　総説

380. 平田純生: リン吸着薬の適正使用～炭酸ランタンは安全か？～. 透析療法ネクストXII: 68-77, 2012 総説

381. Kondo Y, Ishitsuka Y, Kadowaki D, Kuroda M, Tanaka Y, Nagatome M, Irikura M, Hirata S, Sato K, Maruyama T, Hamasaki N, Irie T: Phosphoenolpyruvic Acid, an Intermediary Metabolite of Glycolysis, as a Potential Cytoprotectant and Anti-oxidant in HeLa Cells. Biol Pharm Bull 35(4): 606-611.2012. 英文原著

382. 平田純生, 田中章郎, 柴田佳菜子: 腎薬ニュース第 10 号（2012 年 3 月）eGFR を含めた腎機能推算式の正しい使い方は？日腎薬誌 創刊準備号: 40-43, 2012　　総説

383. Hirata S, Kadowaki D: Appropriate drug dosing in patients receiving peritoneal dialysis. Suzuki H ed, Home Dialysis in Japan, contemporary status. Basel, Karger, Switzerland, Contribution to Nephrology vol 177, P30-37, 2012　　英文総説

384. 門脇大介, 平田純生: 透析患者の薬物適正使用. 変革する透析医学., 秋澤忠男, 監修: P365-30, 医薬ジャーナル, 大阪, 2012.　　総説

385. 平田純生: 腎機能障害者の薬物療法. 新しい薬学事典., 朝倉書店, 東京, P236-240, 2012. 総説

386. 平田純生, 門脇大介, 成田勇樹: IV章 1.総論 透析患者における薬剤使用について. ガイドラインサポートハンドブック 血液透析患者における心血管合併症の評価と治療. 医薬ジャーナル, 大阪, P224-232, 2012　　総説

387. 平田純生, 門脇大介, 成田勇樹: IV章 1.総論 透析患者における心血管系薬剤の使い方. ガイドラインサポートハンドブック 血液透析患者における心血管合併症の評価と治療. 医薬ジャーナル, 大阪, P233-244,2012　　総説

388. Hirakata H, Nitta K, Inaba M, Shoji T, Fujii H, Kobayashi S, Tabei K, Joki N, Hase H, Nishimura M, Ozaki S, Ikari Y, Kumada Y, Tsuruya K, Fujimoto S, Inoue T, Yokoi H, Hirata S, Shimamoto K, Kugiyama K, Akiba T, Iseki K, Tsubakihara Y, Tomo T, Akizawa T: Japanese Society for Dialysis Therapy guidelines for management of cardiovascular diseases in patients on chronic hemodialysis. Ther Apher Dial 16(5): 387-435, 2012　　英文原著

389. Kadowaki D, Sumikawa S, Arimizu K, Taguchi K, Kitamura K, Ishitsuka Y, Narita Y, Irie T, Maruyama T, Otagiri M, Hirata S: Effect of acetaminophen on progression of renal damage in adenine induced renal failure model rat. Life Sci. 2012 Dec 17;91(25-26):1304-8. doi: 10.1016/j.lfs.2012.09.018. Epub 2012 Oct 12.　　英文原著

390. 平田純生: 適切な治療薬の選択について.スタンダード薬学シリーズ 6.薬と疾病 II. 薬物治療（1）第 2 版, 東京化学同人, P52-55, 2012　　総説

391. 平良知子, 曽田彩夏, 坂口翔一, 石松隆志, 園田 昭彦, 平山 英雄, 成田 勇樹, 門脇 大介, 平田純生: 透析患者用マルチビタミンサプリメントの有用性評価. 日腎薬誌 1:（1）15-25, 2012 原著 CA

392. 平田純生, 門脇大介, 成田勇樹: CKD 患者で蓄積しやすい薬剤使用の留意点. 薬局 63(10)：3061-3066, 2012　　総説

393. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: ケーススタディで学ぶ腎臓病薬物療法：透析症例の高リン血症と下肢切断を防ぐ．月刊薬事 54(9): 1521-1526, 2012　　総説

394. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 腎機能障害患者に対する最適な薬物療法を提供するための実践テクニック. Clinical Pharmacist 4(6) , 539-545, 2012　　総説

395. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 薬剤性腎障害と薬物の適正使用.日腎会誌 54: 999-1005, 2012　　総説

396. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 便秘を起こしやすい薬剤．透析ケア 18（8）, 759-762, 2012　　総説

397. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 下剤の正しい飲み方．透析ケア 18（8）, 767-770, 2012　　総説

398. 平田純生: 透析患者の薬剤ポケットブック．メディカ出版，大阪，1-214, 2012　編集著書

## 2013 年

**この年の執筆は 10 本のみで、近年まれにみる少なさですが、腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキストの作成に忙殺されました。編集責任者の東京薬科大・竹内裕紀先生はもっともっと大変だったと思います。第 30 回日本 TDM 学会（写真）の大会長を務め、資金集めに奔走しました。門脇先生の名司会ではじまった「熊本サプライズ」ではくまモンと一緒にステージでくまモン体操を踊りました。**

399. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 腎障害患者/透析患者への抗インフルエンザ薬の至適投与．インフルエンザ 14（1）: 21-23, 2013　　総説

400. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: ドラッグモニタリングの可能な薬剤．腎と透析 74 増刊号，腎疾患治療薬マニュアル 2013-2014, 74: 881-887, 2013　　総説

401. 平田純生，門脇大介，成田勇樹: 薬物血中濃度．透析患者の検査値の読み方 改訂第 3 版．日本メディカルセンター, 438-441，東京, 2013　　総説

402. 平田純生: 腎不全における薬物投与法．内科学書新訂第 8 版，中山書店，東京，p439-442, 2013　総説

403. Kondo Y, Ishitsuka Y, Kadowaki D, Fukumoto Y, Miyamoto Y, Irikura M, Hirata S, Sato K, Maruyama T, Hamasaki N, Irie T. Phosphoenolpyruvate, a glycolytic intermediate, as a cytoprotectant and

antioxidant in ex-vivo cold-preserved mouse liver: A potential application for organ preservation. J Pharm Pharmacol 65: 390-401, 2013　　英文原著

404. 浦田元樹，平田純生：抗菌薬の至適投与．腎と透析 74（3），383-389, 2013　　総説

405. 平田純生，木村 健，竹内裕紀，編：腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト．じほう，東京, 2013　編集著書

406. 平田純生，門脇大介，成田勇樹：便秘している！透析ケア特集「検査値・症状から「コレがあやしい」に気づく！透析患者のくすりと副作用.」透析ケア 19（10）: 966-969, 2013　(2013.10)　　総説

407. Mizuno T, Ishikawa K, Sato Eaichi, Koike Takayuki, Kushida M, Miyagawa Y, Yamada K, Hirata S, Imai E, Noda Y: The risk factors of severe acute kidney injury induced by cisplatin. Oncology 85: 364-369, 2013　英文原著

408. 平田純生：わかりやすい透析患者のお薬講座．医薬の門 53(4): 190-195, 2013　　総説

409. 平田純生，門脇大介，成田勇樹：　薬剤性腎前性急性腎障害～薬剤性腎性急性腎障害との鑑別と原因薬物について～．日腎薬誌 2(3): 3-12, 2013　　査読あり総説

410. Ishitsuka Y, Fukumoto Y, Kondo Y, Irikura M, Kadowaki D, Narita Y, Hirata S, Moriuchi H, Maruyama T, Hamasaki N, Irie T: Comparative effects of phosphoenolpyruvate (PEP), a glycolytic intermediate, as an organ preservation agent with glucose and N-acetylcysteine against organ damage during cold storage of mouse liver and kidney. ISRN Pharmacol. 2013 Dec 5;2013:375825. doi: 10.1155/2013/375825. eCollection 2013.　　英文原著

411. 平田純生：陽イオン交換樹脂　患者さんに適した投与方法．3 分でわかる高カリウム血症治療～患者さんに適した投与方法～．鳥居薬品, 2013　　ビデオ

412. 平田純生：陽イオン交換樹脂　便秘症を考慮した薬剤選択．3 分でわかる高カリウム血症治療～便秘症を考慮した薬剤選択～．鳥居薬品, 2013　　ビデオ

413. 平田純生：腎疾患関連薬剤一覧．腎疾患・透析 最新の治療 2014－2016, P393-398, 南江堂，東京, 2014　　総説

414. 平田純生：慢性腎臓病（CKD）患者の薬物療法～薬剤師としてなすべきこと～．薬剤師のための WEB 講演会．田辺三菱, 2013　　ビデオ

## 2014 年

**チーム医療の大切さに感化され、「透析ナースのための服薬指導 平田ゼミ」を刊行。わかりやすく書くって、簡単そうで難しいことを改めて感じました。熊本の卒業式はいつも桜が満開です（写真左）。宇野勝次理事長のもと、日本医薬品安全性学会が５月に結成され、副理事長に就任しました。ますます多忙になりそうです。研究室には社会人大学院生が仲間に加わり、その後入ってきた 3 年生は 4 人とも元気のよい女の子で、娘というより孫のよう（写真中）。「ボーダレスな薬学部を目指した薬剤師支援システムによる社会貢献」で平成 26 年度熊本大学教育活動表彰グランプリを受賞しました。薬学部では昨年の首藤准教授に続き２年連続の快挙です（写真右）。**

表彰状

一般表彰　グランプリ

平田　純生　殿

あなたは教育活動に精励し
熊本大学の発展に大きく
貢献されました
よってここにその功績を
たたえ表彰します

平成２６年１１月２８日

国立大学法人熊本大学長

谷口　功

415. 平田純生: 腎機能低下時に注意の必要な薬剤投与量一覧. 腎疾患・透析 最新の治療 2014－2016, P399-427, 南江堂, 東京, 2014　　総説

416. 平田純生, 木村 健, 竹内裕紀: 腎臓病薬物療法学会～専門認定薬剤師について～. 日本透析医会雑誌 29（1）: 40-46, 2014　　総説

417. 平田純生, 木村 健, 竹内裕紀: 腎臓病薬物療法専門（認定）薬剤師について～. 臨牀透析 6 月特大号 30（6）: 665-672, 2014　　総説

418. 平田純生: 急性血液浄化施行中の投薬管理. 急性血液浄化法徹底ガイド第 3 版, 救急・集中治療 26（3, 4）: 471-479, 2014　　総説

419. 平田純生: 透析ナースのための服薬指導　平田ゼミ（メディカ出版; 編著）透析ナースのための服薬指導平田ゼミ. メディカ出版, 大阪, P1-264, 2014　　編集著書

420. 平田純生: 透析患者の薬の用い方. 透析療法パーフェクトガイド　第 3 版 P296-301, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2014　　総説

421. 平田純生:リン吸着薬はのむタイミングが大切. やさしい透析患者のためのリン・カルシウム代謝の自己管理. 医薬ジャーナル, 大阪, p28-29, 2014　総説

422. 平田純生: 薬をきちんと飲みましょう. やさしい透析患者のためのリン・カルシウム代謝の自己管理. 医薬ジャーナル, 大阪, p56, 2014　　総説

423. Hirata K, Saruwatari J, Enoki Y, Iwata K, Urata Y, Aizawa K, Ueda K, Shirouzono T, Imamura M, Moriuchi H, Ishima Y, Kadowaki D, Watanabe H, Hirata S, Maruyama T, Fukunaga E. Possible false-negative results on therapeutic drug monitoring of phenytoin using a particle enhanced turbidimetric inhibition immunoassay in a patient with a high level of IgM. Ther Drug Monit 36(5) 553-555, 2014　　英文原著

424. 平田純生: 一般社団法人日本病院薬剤師会監修, 腎障害性薬剤の薬学的管理. 腎機能低下患者における薬剤業務マニュアル～CKD 患者の薬物療法的成果のポイントと実例～. P144-157, じほう, 東京, 2014　　総説

425. 平田純生: 一般社団法人日本病院薬剤師会監修, 脂質異常症治療薬の薬学的管理手順. 腎機能低下患者における薬剤業務マニュアル～CKD 患者の薬物療法的成果のポイントと実例～. P216-220, じほう, 東京, 2014　　総説

426. Kondo Y, Ishitsuka Y, Shigemori E, Irikura M, Kadowaki D, Hirata S, Maemura T, Irie T. Awareness

and current implementation of drug dosage adjustment by pharmacists in patients with chronic kidney disease in Japan: a web-based survey. BMC Health Serv Res. 14:615, 2014 英文原著

## 2015 年

日本腎臓病薬物療法学会の会員数は 1300 名を超え、法人化を目指して多忙な日々が続きます。1 月に発刊された「慢性腎臓病（CKD）薬物療法の疑問点」は中級者向けに書いた非常に濃い内容です。これからは私が書くだけでなく、初めて論文を書く薬剤師の先生方のサポートもしたいと思います。じほうより出版される「領域別アドバンスト薬剤師シリーズ　腎臓病薬物療法トレーニングブック」、扶桑薬品工業の「BP Up to Date」、じほうの「調剤と情報の CKD 特集の増刊号」、メディカ出版「透析患者のくすりカラー大事典」などの編集をやりました。7 月には第 1 回日本医薬品安全性学会が福山で開催されましたが、これは内容が濃く、討論も活発な非常に面白い大会でした。新 3 年生はバラエティに富んだ男女 2 名ずつ。実にいいバランスです。

427. Kadowaki D, Sakaguchi S, Miyamoto Y, Taguchi K, Muraya N, Narita Y, Sato K, Chuang VT, Maruyama T, Otagiri M, Hirata S: Direct radical scavenging activity of benzbromarone provides beneficial antioxidant properties for hyperuricemia treatment. Biol Pharm Bull. 38(3):487-92, 2015 英文原著

428. Kadowaki D, Anraku M, Sakaya M, Hirata S, Maruyama T, Otagiri M. Olmesartan protects endothelial cells against oxidative stress-mediated cellular injury. Clin Exp Nephrol 19: 1007-1014, 2015 英文原著

429. Fukuda S, Koyama H, Kondo K, Fujii H, Hirayama Y, Tabata T, Okamura M, Yamakawa T, Okada S, Hirata S, Kiyama H, Kajimoto O, Watanabe Y, Inaba M, Nishizawa Y: Effects of nutritional supplementation on fatigue, and autonomic and immune dysfunction in patients with end-stage renal disease: a randomized, double-blind, placebo-controlled, multicenter trial. PLoS One 10(3) :e0119578, 2015 英文原著

430. 平方秀樹監修，平田純生編：ここが知りたい慢性腎臓病（ＣＫＤ）患者の薬物療法の疑問点～原則と例外で極める適正使用～．医薬ジャーナル、2015　　編集著書

431. 門脇大介，成田勇樹，平田純生：腎不全患者のがん治療 4）腎不全患者における抗がん剤の使い方．腎臓内科・泌尿器科 1（1）74-79, 2015　　総説

432. 成末まさみ，杉本悠花，柴田龍二郎，大坪俊夫，平田純生：プレガバリンは腎機能を考慮した推奨用量でも腎機能低下患者の有害事象発生率が高い．透析会誌 48（3）：155-161, 2015　　和文原著 CA

433. 平田純生:薬剤師は何をどこまで行うの？クリニックでもここまでできる！ＣＫＤチーム医療のテキスト．日本医事新報社，東京，P40-45, 2015　総説

434. 平田純生、門脇大介、成田勇樹：輸液製剤～シンプルに理解する輸液の種類～．病態生理と症例から学ぶ輸液ガイド，内田俊也編，文光堂，東京, P58-62, 2015　2015 年 4 月 15 日　　総説

435. 林 雅彦，八重徹司，柴田和彦，三輪高市，森 尚義，大井一弥，平田純生：モンテカルロ・シミュレーションを用いたバレニクリン酒石酸塩の腎機能及び体重に応じた投与量の検討．日腎薬誌 4(1): 3-8, 2015　和文原著

436. 成末まさみ，平田純生:NST 活動のレベルアップのために知っておきたい薬の知識 CKD 関連薬剤の特徴と副作用．臨床栄養 127(2): 167-173, 2015. 2015　　総説

437. 平田純生：腎機能低下患者とハイリスク薬の腎機能に応じた適正投与～薬剤師の仕事は薬の有効性と安全性を確保する仕事～. BP Up to Date, 15(3): 12-14, 2015　　総説

438. 平田純生：腎機能の正しい把握が投与設計の基本．ファルマシア 51（9）：863-867, 2015　　総説

439. 森直樹，平田純生：高齢者の内科疾患：薬物療法のポイント．腎と透析 78（6）：869-874, 2015　　総説

440. 平田純生監修：腎臓病薬物療法ベーシック．調剤と情報臨時増刊号 21(10): ,1-189, 2015　　編集著書

441. 島 祐子，　平田純生：腎機能低下患者に腎排泄性薬剤を使うときの簡単な減量法．調剤と情報 21(10): 1290-1296, 2015　　総説

442. 平田純生：軽視できない薬剤性便秘～致死性の腸管穿孔を防ぐために～. KEYXLATE REPORT 11, 2015　　総説

443. 平田純生：リン吸着薬の選択と正しい使い方．医薬の門 55(4): 178-183, 2015　　総説

444. 平田純生監修：領域別アドバンスト薬剤師シリーズ　腎臓病薬物療法トレーニングブック．じほう, 2015　　編集著書

445. 平田純生：リン吸着薬のアドヒアランス不良の透析症例．腎臓病薬物療法トレーニングブック. P30-46，じほう, 2015　　総説

446. 森本健幹，平田純生：アシクロビルによる薬剤性腎障害．腎臓病薬物療法トレーニングブック. P70-83，じほう, 2015　　総説

447. 平田純生監修: 透析患者のくすりカラー大事典. 透析ケア 2015 冬季増刊 P1-280, メディカ出版, 大阪, 2015　　編集著書

448. 平田純生: 高齢者の薬物治療におけるリスク管理～薬物動態から考える OAB 治療剤、オキシブチニン塩酸塩　経皮吸収型製剤～. Mebio 32（10）: 98-103, 2015　　総説

449. 門脇大介, 成田勇樹, 平田純生: 抗がん剤治療と腎障害. 臨床泌尿器科 69（7）: 540-545, 2015　　総説

450. 門脇大介, 成田勇樹, 平田純生: 腎不全患者における抗. がん剤の使い方. 腎臓内科・泌尿器科 1（1）: 74-79, 2015　　総説

451. 平田純生: 1.鎮痛薬選択における腎機能評価の重要性. 5 枚で解説！疼痛治療のスタンダード～腎機能に配慮した薬剤選択編～., 昭和薬科工業, 2015　ビデオ

452. 平田純生: 2.NSAIDs による腎障害リスク. 5 枚で解説！疼痛治療のスタンダード～腎機能に配慮した薬剤選択編～., 昭和薬科工業, 2015　　ビデオ

453. 平田純生: 3.腎機能低下患者さんにおける鎮痛薬選択. 5 枚で解説！疼痛治療のスタンダード～腎機能に配慮した薬剤選択編～., 昭和薬科工業, 2015　　ビデオ

454. 平田純生: 4.アセトアミノフェンにによる腎障害リスク. 5 枚で解説！疼痛治療のスタンダード～腎機能に配慮した薬剤選択編～., 昭和薬科工業, 2015　　ビデオ

455. 平田純生、門脇大介、近藤悠希、石塚洋一：NSAIDs とアセトアミノフェンの安全性～特に腎機能障害に着目して～日本医薬品安全性学会誌 1（1）：13-30, 2015　総説

456. 門脇大介, 平田純生, 成田勇樹: 腎疾患時における薬物動態の考え方について教えてください. 月間薬事 58（4）723-726, 2016　　総説

457. 吉森友紀, 平田純生: 高齢者の腎機能と効果的な抗菌療法. 高齢者感染症～超高齢社会と特徴, P206-218, 医薬ジャーナル, 大阪, 2016　　総説

458. 成田一衛, 山縣邦弘, 臼井丈一, 奥山 宏, 坂井宣彦, 鶴岡秀一, 寺田典生, 平田純生, 山谷秀喜, 横山 仁, 和田隆志（薬剤性腎障害診療ガイドライン作成委員会）: 薬剤性腎障害の診療ガイドライン. 日腎会誌 58（4）477-555, 2016　　総説

## 2016 年

日本腎臓病薬物療法学会の会員数は 1700 名を超え、法人化も達成しました。これからは地域連絡協議会を活性化して、学会を上げての調査･研究活動、国際交流による意見交換を行いたいと思います。2015 年に日本腎臓学会の薬剤性腎障害ガイドライン、日本化学療法学会の TDM ガイドライン、日本 TDM 学会・日本循環器病学会の循環器 TDM ガイドラインの作成に関わりましたが 2016 年にはそれらが公開されました。初めての医師向けの書籍「腎機能に応じた投与戦略」が医学書院から出版されました。じほうから腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブックも発刊されました。まさに超多忙の 1 年です。そして 4 月に熊本地震。みんな何らかの被害を受けましたが、薬学部の学生・職員ともに全員無事でした。そして配属された 3 年生は 4 人とも女性です。福永君が大学院に進学し、大学院生が 2 名になりました。熊本地震のため 2019 年の腎臓病薬物療法学会・熊本大会の開催が危ぶまれるほどいたる所に被害が及びました。広島カープが 25 年ぶりのリーグ優勝！

459. 竹末芳生，大曲貴夫，岡田賢二，笠原　敬，関　雅文，髙倉俊二，高橋佳子，松元一明，三鴨廣繁，猪川和朗，平田純生，木村利美，小林昌宏，西　圭史，浜田幸宏（日本化学療法学会/日本 TDM 学会抗菌薬 TDM ガイドライン作成委員会編）：抗菌薬 TDM ガイドライン作成委員会編抗菌薬 TDM ガイドライン 2016．日化療学誌 64(3): 387-477, 2016　　総説

460. 秋澤忠男，平田純生監修，平田純生，竹内裕紀，古久保 拓著: 腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック．じほう，P1-314, 2016　　編集著書

461. 平田純生，柴田啓智，宮村重幸，門脇大介: 患者腎機能の正確な評価の理論と実践．日腎薬誌 5（1）: 3-18, 2016　　査読あり総説

462. 島 祐子，平田純生: 入院血液透析患者のせん妄治療におけるチアプリド塩酸塩の適正使用．日腎薬誌 5（1）: 19-25, 2016　　和文原著 CA

463. 江藤りか，天本耕一郎，上島泰二，山口健太郎，土時松一，成井 健，下坂 健，本間三絵，河村綾子，井上和秀，宮崎彰宣，中嶋幹郎，七種 均，益田宣弘，蒲池芳明，田代浩幸，山田晴美，宗 陽子，星子浄水，平田純生，宮崎長一郎: 保険薬局における腎機能情報を用いた薬物療法適正化の取り組み．医療薬学 41（10）: 732-

739　　和文原著

464. 平田純生編集: 処方鑑査に活かす腎機能の評価と薬の使い方. 調剤と情報, 2016　　総説

465.　平田純生: HTU21 腎障害患者・血液透析患者に抗不整脈薬を使用する際、血中濃度モニタリングはどのようにしたらよいでしょうか？青沼和隆, 志賀 剛編: 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン: （日本循環器学会/日本 TDM 学会合同ガイドライン）2015 年版, 日本循環器学会, 東京, 2016　　総説

466.　平田純生: HTU22 腎機能障害患者・透析患者におけるジゴキシンを使用する際、血中濃度モニタリングはどのようにしたらよいでしょうか？青沼和隆, 志賀 剛編: 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン: （日本循環器学会/日本 TDM 学会合同ガイドライン）2015 年版, 日本循環器学会, 東京, 2016　　総説

467.　平田純生: HTU23 感染性心内膜炎を合併した腎障害患者・血液透析（HD: hemodialysis）患者にバンコマイシンを使用する際、血中濃度モニタリングはどのようにしたらよいでしょうか？青沼和隆, 志賀 剛編: 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン ：（日本循環器学会/日本 TDM 学会合同ガイドライン）2015 年版, 日本循環器学会, 東京, 2016　　総説

468.　平田純生: HTU30 高齢者におけるジゴキシンを使用する際、血中濃度モニタリングはどのようにしたらよいでしょうか？（時期、採血時間：服薬との関係、間隔、初期用量）. 青沼和隆, 志賀 剛編: 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン ：（日本循環器学会/日本 TDM 学会合同ガイドライン）2015 年版, 日本循環器学会, 東京, 2016　　総説

469.　Narita Y, Ueda M, Uchimura K, Kakizoe Y, Miyasato Y, Mizumoto T, Morinaga J, Hayata M, Nakagawa T, Adachi M, Miyoshi T, Sakai Y, Kadowaki D, Hirata S, Mukoyama M, Kitamura K. Combination therapy with renin-angiotensin-aldosterone system inhibitor telmisartan and serine protease inhibitor camostat mesilate provides further renoprotection in a rat chronic kidney disease model. J Pharmacol Sci 130:110-116, 2016　　英文原著

470. 平田純生, 門脇大介, 成田勇樹: 慢性腎臓病患者における薬剤の適正使用. 日本病院薬剤師会雑誌 52（8）: 991-995, 2016　　総説

471. 平田純生, 門脇大介, 成田勇樹: NSAIDs による腎障害 ：COX-2 阻害薬およびアセトアミノフェンは腎障害を起こすか 日腎会誌 58（7）1059-1063, 2016　　総説

472. 平田純生, 編著: 改訂第 2 版透析患者の薬剤ポケットブック. P1-255, メディカ出版, 大阪, 2016　　編集著書

473. 向山政志, 平田純生監修: 腎機能に応じた投与戦略. 重篤な副作用の防ぎ方. P1-387, 医学書院, 東京, 2016　　編集著書

474.　急性腎障害（AKI）診療ガイドライン作成委員会編：急性腎障害（AKI）診療ガイドライン 2016. P1-91, 東京医学社, 東京, 2016　　総説（外部査読）

475. Urata M, Narita Y, Kadowaki D, Tanoue K, Yashiro I, Fukunaga M, Shibata A, Yposhida Y, Soejima K, Hirata S: Interaction of arbekacin with dialysis membrane . Renal Replacement Ther DOI 10.1186/s41100-016-0045-z　　英文原著 CA

# 2017 年

4 月から門脇先生が崇城大学薬学部教授として栄転されました。栄転は非常に喜ばしいことですが、寂しくなります。

日本腎臓病薬物療法学会の会員数は 5 月で 2,000 名を超えました。「発足当初は 200～300 人しか集まらないんじゃないか」と危惧していましたが、腎臓病の薬物療法には高齢者医療にもつながるなど尽きないテーマがあり、やはり興味は尽きないと思っています。

7 月には第 3 回日本医薬品安全性学会を開催しましたが、今回の学会ほど、資金集めに苦労した学会はありませんでした。ただしプログラムは非常に充実していましたので面白い学会になりました。新 3 年生はテニス部の男女 1 名ずつ。平田の引退もあと 3 年足らずと、カウントダウン状態です。広島カープはセリーグ連覇を果たしたものの、日本シリーズには進めませんでしたが、我が臨床薬理と薬物治療学の混成チームは分野別対抗ソフトボール大会で準決勝に進みました（写真右）。

476. 平田純生: 腎疾患関連薬剤一覧. 腎疾患・透析 最新の治療 2017－2019, P351-358, 南江堂, 東京, 2017 総説

477. 平田純生: 腎機能低下時に注意の必要な薬剤投与量一覧. 腎疾患・透析 最新の治療 2017-2019, P359-386, 南江堂, 東京, 2017 総説

478. 平田純生 COX-2 選択阻害薬は腎障害を起こしやすいですか？薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-. P48-50, 診断と治療社, 東京, 2017 総説

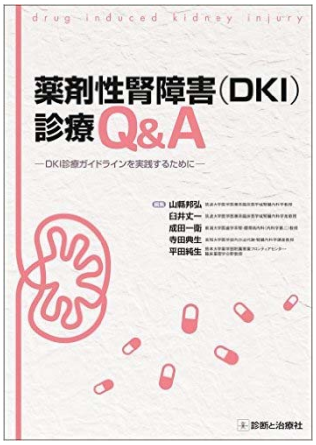
479. 平田純生: アセトアミノフェンは腎障害を起こしやすいですか？薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-. P51-53, 診断と治療社, 東京, 2017 総説

480. 平田純生: 薬剤性腎障害原因薬物一覧表. 薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-. P196-201, 診断と治療社, 東京, 2017 総説

481. 平田純生: 腎機能低下時の主な薬物投与量一覧. 薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-. P202-291, 診断と治療社, 東京, 2017 総説

482. 山縣邦弘，臼井丈一，成田一衛，寺田典生，平田純生：薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-. P1-336，診断と治療社，東京, 2017　編集図書

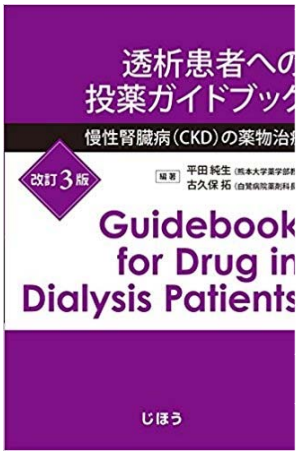
483. 平田純生: [FAQ]副作用を防ぐために知っておきたい腎機能の正しい把握法. 週刊医学界新聞 3212 号 P3, 2017 年 2 月 20 日　総説




484. Aonuma K, Shiga T, Atarashi H, Doki K, Echizen H, Hagiwara N, Hasegawa J, Hayashi H, Hirao K, Ichida F, Ikeda T, Maeda Y, Matsumoto N, Sakaeda T, Shimizu W, Sugawara M, Totsuka K, Tsuchishita Y, Ueno K, Watanabe E, Hashiguchi M, Hirata S, Kasai H, Matsumoto Y, Nogami A, Sekiguchi Y, Shinohara T, Sugiyama A, Sumitomo N, Suzuki A, Takahashi N, Yukawa E, Homma M, Horie M, Inoue H, Ito H, Miura T, Ohe T, Shinozaki K, Tanaka K; Japanese Circulation Society and the Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring Joint Working Group: Guidelines for Therapeutic Drug Monitoring of Cardiovascular Drugs Clinical Use of Blood Drug Concentration Monitoring (JCS 2015)- Digest Version. Circ J 81(4): 581-612, 2017　PMID:28302953　英文原著

485. 山本 舞，平田純生: センナを大量に処方しても便秘が続いています。便秘の対処の骨を教えてください。透析患者の内科管理コンサルタント. 金芳堂，京都 P284-287, 2017　総説

486. 平田純生，成田勇樹: 消炎鎮痛薬を使いたいとの訴えあり、薬剤選択と投与法は？症例から学ぶ腎機能低下時の薬の使い方. 文光堂，東京, P136-140, 2017　総説




487. Urata M, Narita Y, Fukunaga M, Kadowaki D, Hirata S: A simple formula for predicting drug removal rates during hemodialysis. Ther Apher Dial 2018 Oct;22(5):485-493.　英文原著 CA

488.　平田純生，古久保 拓 編著: 改訂 3 版 透析患者への投薬ガイドブック改訂 3 版. じほう，東京, P1-1083, 2017　編集著書

489. 平田純生，成田勇樹: 「サプリメント・健康食品は摂ってもいいですか？」[64 歳 女性,糖尿病,血液透析,透析歴 10 年](Q&A/特集)，患者さんからよく尋ねられる内科診療の FAQ. 内科 9 月増大号 120(3): 519-520, 2017　総説

490. 平田純生：透析患者における便秘治療の重要性～透析患者に望ましい便秘薬とは～. https://med.skk-net.com/movie/lagnosnf/lagnosnf201801.html

## 2018 年

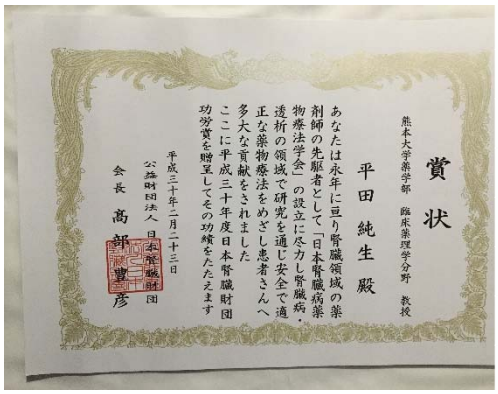
3 月には大学院 4 年で大阪の大野記念病院の浦田元樹先生が素晴らしいプレゼンでつぎつぎと難解な質問を切り崩して成績優秀者として学部長表彰を受け、学位を取得しました（写真左）。

定年退職まで残り僅かのため、新 3 年生は仲の良い 2 人の女の子のみ（写真中）。

長年勤めてきた OSCE の実行委員長は交替してもらうことができましたが、国立大学の予算削減で、人員が増えることなく徐々に忙しさが増してきました。臨床研究としては InBody という体組成計を使用して筋肉量を測定することによってサルコペニア患者、筋肉量の多いアスリートの腎機能を正確の評価するテーマが軌道に乗りました。

翌年の日本腎臓病薬物療法学会の熊本大会が開催されるかどうかも地震のため迷走しており、福岡開催も視野に入れ検討していましたが、熊本城ホールが 11 月から使用可となり一安心。広島カープはリーグ優勝 3 連覇を果たしましたが、ソフトバンクの甲斐キャノンに完全に盗塁を阻まれ完敗。腎臓財団の功労賞を受賞しました（写真右）。

熊本城マラソンには 3 年連続完走。長年悩んでいたひざ痛がこの年になって完治しました。



賞状

熊本大学薬学部　臨床薬理学分野　教授
平田純生 殿

あなたは永年に亘り腎臓領域の薬剤師の先駆者として「日本腎臓病薬物療法学会」の設立に尽力し腎臓病・透析の領域で研究を通じ安全で適正な薬物療法をめざし患者さんへ多大な貢献をされました
ここに平成三十年度日本腎臓財団功労賞を贈呈してその功績をたたえます

平成三十年十一月二十三日
公益財団法人 日本腎臓財団
会長 高部豊彦

491. 平田純生:中毒性副作用のメカニズム. 医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P13-15, 2018 総説

492. 平田純生:基礎疾患-腎疾患. 医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P52-55, 2018 総説

493. 平田純生:中毒性副作用事例解析例. 医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P67-70, 2018 総説

494. 平田純生:ジゴキシンよる不整脈が疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P180-184-15, 2018 総説

495. 平田純生:プレガバリンによるふらつきが疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P383-386, 2018 総説

496. 平田純生: Ⅱ.7）①薬剤による腎障害アセスメントの基本. 医薬品の副作用アセスメント. 南山堂,

東京, P277-281, 2018　　総説

497. 平田純生: ジクロフェナク（NSAIDs）による腎障害が疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P281-289, 2018　　総説

498. 平田純生: アルベカシン（アミノグリコシド系抗菌薬）による腎障害が疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P286-15, 2018　　総説

499. 平田純生:バンコマイシン（グリコペプチド系抗菌薬）による腎障害が疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P290-294, 2018　　総説

500. 平田純生: メトトレキサート（葉酸代謝拮抗薬）による腎障害が疑われた！医薬品の副作用アセスメント. 南山堂, 東京, P295-298, 2018　　総説

501. 平田純生: 薬剤師と医師の連携による慢性腎臓病患者の薬剤管理. 日内科誌 107（5）: 826-833, 2018　　総説

502. 秋澤忠男, 平田純生監修, 平田純生, 竹内裕紀, 古久保 拓著: 第 2 版腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック. じほう, P1-329, 2018　　編集図書

503. 平田純生: 中毒性副作用の臨床解析とその有用性. 薬局薬学 10(1): 30-34, 2018　総説

504. 平田純生: リン吸着薬はのむタイミングが大切. やさしい透析患者のためのリン・カルシウム代謝の自己管理. 医薬ジャーナル, 大阪, p, 2018　　総説

505. 平田純生: 薬をきちんと飲みましょう. やさしい透析患者のためのリン・カルシウム代謝の自己管理. 医薬ジャーナル, 大阪, p56, 2018　　総説

506. 平田純生：透析患者・持続的血液浄化法施行患者. 日本化学療法学会: 抗菌化学療法認定薬剤師テキスト～薬剤師が知っておきたい感染症と抗菌化学療法～. 日本化学療法学会, 東京, p206-213, 2018　　総説

507. 平田純生: 便秘への対策・治療はどのように行いますか？臨牀透析 2018 年 6 月増刊号　透析患者におけるキュア＆ケアガイドブック, 34（7）: 779-782, 2018　　総説

508. Muraya N, Kadowaki D, Miyamura S, Kitamura K, Uchimura K, Narita Y, Miyamoto Y, Chuang VTG, Taguchi K, Maruyama T, Otagiri M, Hirata S: Benzbromarone Attenuates Oxidative Stress in Angiotensin II- and Salt-Induced Hypertensive Model Rats. Oxid Med Cell Longev. 2018 Jun 5;2018:7635274. doi: 10.1155/2018/7635274. eCollection 2018.　　英文原著

509. 平田純生: Q15 透析患者はなぜ便秘が多いの？どう対処すればいいの？透析ケア 24（5）: 417 , 2018　　総説

510. 平田純生: 新時代の薬剤師像を追う第 6 回　薬剤性便秘を防ぐ薬剤師の役割. マイラン製薬 2018　ビデオ

## 2019

6 月にハンガリーのブダペストで開催された第 56 回欧州腎臓学会議・欧州透析移植学会議（EDTA-ERA）に初参加。期待していた以上に面白かったです。米国腎臓学会 ASN は実務準備実習があるため参加できず、熊大教授として最初で最後の海外学会への参加でした。

我が家での臨床薬理メンバーの食事会（写真上左）も、500 回続いた抄読会（写真上右）、85 回開催した育薬フロンティアセミナーや平田の薬剤師塾もすべて年内に終えました。そしてなんといってもこの年最大のイベントは第 13 回日本腎臓病薬物療法学会学術大会でした。「令和元年肥後腎薬の乱」をテーマに熊本城ホールで開催できたことです（写真下左）。クイズ大会、早朝ジョギング（写真下右）、立川志の春さんの独演会、朝まで平田塾を金曜日に開催、ラウンドテーブルディスカッションと今までにない企画をやりました。有料参加者数 1,609 名、実行委員・学生アルバイトを除く総参加者数は 1,641 名で福岡大会の 1,610 名に次ぐ参加者数になりました。

511. Kawakami M, Hirata S, Mizuta M, Hidaka D, Sano H Isobe K, Nakatani S, Yuki Narita N: Modified serum creatinine-derived equations with muscle mass-adjusted estimation of renal function and serum cystatin C-derived estimated glomerular filtration rate in elderly individuals. Int J Clin Pharmacol Ther 57(2): 229-239, 2019　英文原著 CA

512. Sueyoshi M, Fukunaga M, Mei M, Nakajima A, Tanaka G, Murase T, Narita Y, Hirata S, Kadowaki D: Effects of lactulose on renal function and gut microbiota in adenine-induced chronic kidney disease rats. Clin Exp Nephrol 23（7）: 908-919, 2019　英文原著

513. 平田純生: 帯状疱疹治療で薬剤性腎障害を起こさないための薬剤の投与方法. マルホ製薬 2019 ビデオ

514. 平田純生監修: 透析患者における便秘症治療の重要性～透析患者に望ましい便秘薬とは～. 三和化学, 2019 https://med.skk-net.com/movie/lagnosnf/honpen-6.html ビデオ

515. 日本薬学会編; 入江徹美, 安藤由喜雄, 木村 健, 平田純生, 丸山 徹編: 知っておきたい臨床検査値 第 2 版, 東京化学同人, 東京, P 1-244, 2019

516. Kondo Y, Ishitsuka Y, Kawabata N, Iwamoto N, Takahashi R, Narita Y, Kadowaki D, Hirata S, Uchino S, Irie T: Knowledge and awareness of nonpharmacist salespersons regarding over-the-counter drug use in patients with chronic kidney disease in Japan. PLOS ONE 2019; 14(3):e0213763. doi: 10.1371/journal.pone.0213763. eCollection 2019. 英文原著

517. 平田純生: 透析患者における薬物動態の基礎. 臨牀透析 6 月増刊号 CKD 患者におけるがん化学療法－透析患者を中心に. 35 (7) 734-743, 2019 総説

518. Nakatani S, Maeda K, Akagi J, Ichigi M, Murakami M, Harada Y, Utsumia Y, Fukunaga M, Narita Y, Kondo Y, Ishitsuka Y, Tetsumi Irie T, Kadowaki D, Hirata S: Coefficient of determination between estimated and measured renal function in Japanese patients with sarcopenia may be improved by adjusting for muscle mass and sex: a prospective study. Biol Pharm Bull 42(8): 1350-1357, 2019 英文原著 CA

519. Yoshizawa T, Kamijo Y, Hanazawa T, Suzuki Y, Fujita Y, Usui K, Hirata S, Tohru Kishino: Which of hemodialysis and direct hemoperfusion is more recommended for treating severe caffeine poisoning? Int Med 37(9): 1801-1802, 2019 英文原著

520. Narita Y, Hamamura K, Kashiyama M, Utsumi S, Kakizoe Y, Kondo Y, Ishitsuka Y, Jono H, Irie T, Mukoyama M, Saito H, Kadowaki D, Hirata S, Kitamura K: Edoxaban Exerts Antioxidant Effects Through FXa Inhibition and Direct Radical-Scavenging Activity. Int J Mol Sci. 2019 Aug 24;20(17). pii: E4140. doi: 10.3390/ijms20174140. 英文原著

521. 平田純生, 中谷咲良, 成田勇樹: ラウンドアップ法の有効性とピットフォール事例. 月間薬事 61 (13) 2298-2304, 2019 総説

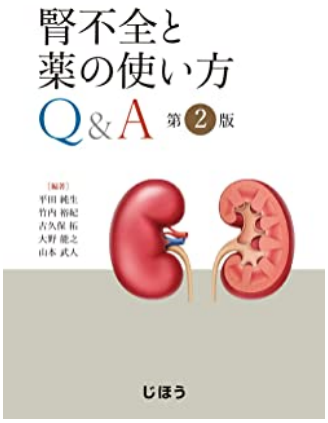
522. 平田純生: 腎機能の評価は難しい. でもこの壁を越えなければ薬剤師としてのステップアップはできない. 月間薬事 61(13): 2311-2324, 2019 総説

523. 平田純生：薬剤師の CKD への関わり～後期高齢者・超高齢者薬物療法への対処～. 日本薬剤師会雑誌 71(10): 1177-1184, 2019 総説

524. 平田純生: 腎不全における薬物投与法. 内科学書改訂第 9 版, 中山書店, 東京, p506-508, 2019 総説

## 2020

2 月には大雨の中、5 年連続熊本城マラソンを完走。3 月には熊本大学を定年退職しましたが、COVID-19 のため、学会や講演会が次々と中止になり、当然ながら最終講義も送別会もほとんどないまま、熊本を去ることになりました。桜を見ながらの卒業式も最後です（写真左）。新居は神戸市灘区、新たな職場は高級住宅街の芦屋市のI&H株式会社（阪神調剤グループ：写真中）です。5 月には 15 年ぶりに腎不全と薬の使い方 Q&A が 900 ページを超す濃い内容で改定されました（写真右）。リモートワークが 1 か月以上続く中、ZOOM を使った熊大での講義は大変でしたが、新たな分野の見識を深めつつ、ようやく充電することができるようになりました。あ～早く薬剤師塾を開講して光る薬剤師を見つけたい・・・。



525. 平田純生編，　平田純生，竹内裕紀，古久保　拓，大野能行，山本武人著：腎不全と薬の使い方 Q&A 第 2 版，じほう，東京, P1-912, 2020
526. 浦田元樹，平田純生，竹内裕紀，古久保　拓著：第 3 版腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック．じほう，東京, P1-500, 2020
527. 平田純生：改訂第 3 版透析患者の薬剤ポケットブック．メディカ出版，大阪, 2020

# 出版物（編集著書のみ）

1. 平田純生，和泉　智，田中一彦，金　昌雄，山川智之編：透析患者への投薬ガイドブック　透析と薬物療法、投与設計へのアプローチ.じほう，東京, P1-337, 1999
2. 岸本武利，監修．平田純生，編．改訂版透析患者への投薬ガイドブック 透析と薬物療法～投与設計へのアプローチ～．じほう，東京, P1-438, 2003
3. 秋澤忠男，監修．平田純生，編．服薬指導 Q and A シリーズ腎臓病編．医薬ジャーナル，大阪，P1-303，2003.

4. 平田純生，古久保 拓 編，奥村勝彦 監修，Q&A で学ぶ TDM 活用ガイド．南山堂，東京，P2-312, 2004.
5. 平田純生: 腎不全と薬の使い方 Q and A. 平田純生，編．じほう，東京，P1-621, 2005
6. 平田純生 監修：医療現場で役立つ TDM のポイント. 2006 http://tfxrrmkoffgftgrrromfkftm.shionogimed.swl.med-host.com/member/vcmtdm/index.html
7. 平田純生，藤田みのり，編・著: 腎不全と健康食品・サプリメント、OTC 薬．南江堂，P1-257, 2006
8. 日本薬学会編; 入江徹美，安藤由喜雄，木村 健，後藤順一，平田純生，丸山 徹編集: 知っておきたい臨床検査値．東京化学同人，東京，P 1-241, 2007
9. 平田純生編: 腎疾患の服薬指導 Q&A～CKD から透析患者まで～．医薬ジャーナル，大阪，P1-379, 2008
10. 平田純生，和泉 智，古久保 拓，編: 改訂 2 版 透析患者への投薬ガイドブック．じほう，東京，P1-666, 2009
11. 平田純生 編著: ナースが知りたい透析患者のくすり Q&A64. 透析ケア 2009 年冬季増刊，MC メディカ出版，大阪，P1-249, 2009
12. 平田純生 編: CKD（慢性腎臓病）の治療と薬 Q&A.，じほう，東京，P1-310, 2010
13. 松山賢治，阿南節子監修，編集，櫻井美由紀，河野えみ子，黒山政一，木村　健，平田純生，徳島裕子編集 ：コンパクト医薬品情報集　ハイリスク治療薬 2010．じほう，東京，P1-1200, 2011
14. 松山賢治，阿南節子監修，編集，櫻井美由紀，徳島裕子，河野えみ子，黒山政一，木村　健，平田純生編集 ：コンパクト医薬品情報集　ハイリスク治療薬 2011．じほう，東京，P1-1200, 2011
15. 松山賢治監修，阿南節子，櫻井美由紀，徳島裕子，河野えみ子，黒山政一，木村　健，平田純生編集: コンパクト医薬品情報集　ハイリスク治療薬 2012．じほう，東京，P1-1317, 2012
16. 平田純生: 透析患者の薬剤ポケットブック．メディカ出版，大阪，1-214, 2012
17. 平田純生編: 腎疾患の服薬指導 Q&A～CKD から透析患者まで～．医薬ジャーナル，大阪，P1-503, 2012
18. 平田純生，木村 健，竹内裕紀，編: 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト．じほう，東京，P1-573, 2013
19. 平田純生: 透析ナースのための服薬指導　平田ゼミ（メディカ出版; 編著）透析ナースのための服薬指導平田ゼミ．メディカ出版，大阪，P1-264, 2014
20. 平方秀樹監修，平田純生編: ここが知りたい慢性腎臓病（CKD）患者の薬物療法の疑問点～原則と例外で極める適正使用～．医薬ジャーナル，大阪，P1-315, 2015
21. 平田純生監修: 腎臓病薬物療法ベーシック．調剤と情報臨時増刊号 21(10): ,1-189, 2015
22. 平田純生監修: 領域別アドバンスト薬剤師シリーズ　腎臓病薬物療法トレーニングブック．じほう，東京，P1-209, 2015
23. 平田純生監修: 領域別アドバンスト薬剤師シリーズ④　腎臓病薬物療法トレーニングブック第 2 版．じほう，東京，P1-209, 2015
24. 平田純生監修: 透析患者のくすりカラー大事典．透析ケア 2015 冬季増刊，メディカ出版，大阪，P1-280, 2015
25. 秋澤忠男，平田純生監修，平田純生，竹内裕紀，古久保 拓著: 腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック．じほう，東京，P1-314, 2016
26. 平田純生，編著: 改訂第 2 版透析患者の薬剤ポケットブック．メディカ出版，大阪，P1-255, 2016

27. 向山政志，平田純生監修: 腎機能に応じた投与戦略．重篤な副作用の防ぎ方．医学書院，東京，P1-387, 2016
28. 山縣邦弘，臼井丈一，成田一衛，寺田典生，平田純生: 薬剤性腎障害（DKI）診療 Q&A-DKI 診療ガイドラインを実践するために-.診断と治療社，東京, P1-321, 2017
29. 平田純生，古久保 拓 編著: 改訂 3 版 透析患者への投薬ガイドブック改訂 3 版．じほう，東京，P1-1083, 2017
30. 秋澤忠男，平田純生監修，平田純生，竹内裕紀，古久保 拓著: 第 2 版腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック．じほう，東京, P1-329, 2018
31. 日本薬学会編; 入江徹美，安藤由喜雄，木村 健，平田純生，丸山 徹編: 知っておきたい臨床検査値 第 2 版，東京化学同人，東京，P 1-244, 2019
32. 平田純生編， 平田純生，竹内裕紀，古久保 拓，大野能行，山本武人著: 腎不全と薬の使い方 Q&A 第 2 版，じほう，東京, P1-912, 2020
33. 浦田元樹，平田純生，竹内裕紀，古久保 拓著: 第 3 版腎機能別薬剤投与量一覧ポケットブック．じほう，東京, P1-500, 2020
34. 平田純生: 改訂第 3 版透析患者の薬剤ポケットブック．メディカ出版，大阪, 2020